

第2章 業務対象地の現況調査

第2章 業務対象地の現況調査

2-1 地域資源の現況

上川地区、東川地区の両地区の地域資源を調査し、以下に整理した。

(1) 上川地区の地域資源

1) 自然環境資源

上川地区の山麓エリアにおける主な自然環境資源一覧を表 2-1-1 に示す。また、地域資源概要図を図 2-1-1 に示す。なお、各資源の概要を整理した個票は資料編に添付する。

表 2-1-1 上川地区における主な自然環境資源一覧

分類	資源名・地名	概要
滝	銀河・流星の滝	日本の滝百選に数えられる、層雲峡観光のメインスポット。利用施設として、銀河の滝、流星の滝を擁する園地や双瀑台(観瀑台)が整備されている。近年、周辺樹木の繁茂により、夏期は園地から滝が見えにくくなっていることが問題視されている。
	紅葉滝(紅葉谷内)	紅葉谷終点部に位置する滝。しぶきを浴びるほど滝に近づくことができる。
柱状節理	大函	壮大な柱状節理を間近に見ることが出来る場所。園地が整備されている。大函～小函間は、現在通行不可となっている。
	小函	層雲峡において最も柱状節理の景観が優れている場所であるが、崩落の危険性が高いため通行不可となっている。過去に大規模な崩落事故があった。
巨石	オンコ岩(紅葉谷内)	紅葉谷で確認される巨石。
巨木	巨木(紅葉谷内)	カツラ等の樹種の巨木。
軽登山コース	紅葉谷	層雲峡温泉から1kmほど離れた赤石川添いにある散策路。紅葉の名所であり、そのほかにも柱状節理、紅葉滝、巨木、動物等自然資源が豊か。現在はモニターツアーが開催される等、積極的なPRが行われている。
	パノラマ台	層雲峡園地から朝陽山に向かう間の眺望ポイント。眺望は良いが、一部急峻な登山道があること、道がわかりづらいことから一般向けではないルートとされている。



写真 2-1-1 銀河・流星の滝



写真 2-1-2 大函

地域資源概要図【山麓エリア】

⑥層雲峡ビジターセンター



〈概要〉
黒岳ロープウェイに隣接する、層雲峡の成り立ち、動植物についての情報、登山者情報など層雲峡の自然資源に関する情報を幅広く入手することができ、多くの利用者が訪れる。
〈PRポイント〉
層雲峡の情報発信施設であり、エコツアー情報の発信拠点としての活用が望まれる。

⑦黒岳ロープウェイ



〈概要〉
層雲峡と黒岳ア合目を結ぶロープウェイ。駐車場を完備しており、乗車施設内には売店、飲食店、トイレがある。夏は黒岳登山者が多く利用するため、登山情報等を掲示している。冬はスキー客の移動手段として稼働しており、イベントも開催している。
〈現状での課題点〉
オフシーズン中の利用者の減少



⑥層雲峡ビジターセンター
温泉街内にありアクセスしやすいが、専用駐車場はない。バスターミナルから約500m離れている。

⑤紅葉谷



〈概要〉
片道40分ほどの散策路。柱状節理、紅葉滝、紅葉、白石、巨木など自然資源が豊富。モニターツアーが開催されるなど、現在積極的なPRが行われている。
〈PRポイント〉
山麓エリア内を代表する自然資源の豊かさ
〈今後の活用案〉
自然観察会、初心者向けのトレッキングツアー
〈現状での課題点〉
・入口付近の廃墟による景観阻害
・駐車スペースが少ない

④層雲峡園地



〈概要〉
国道39号線と石狩川を隔てた園地。野鳥観察小屋、トイレ、木道、デッキがある。
〈PRポイント〉
多目的に利用可能な広大な敷地
〈今後の活用案〉
自然観察会
広大な敷地を生かしたレクリエーション大会
〈現状での課題点〉
・温泉街から離れた立地条件、利用者が少ない

③層雲峡野営場



〈概要〉
炊事場、トイレ、管理棟、テントサイト、駐車場などが整備されている。
〈PRポイント〉
周囲を森林に囲まれた非常に静かな野営場
〈今後の活用案〉
エコツアー開催時の宿泊場
〈現状での課題点〉
・オフシーズン中の利用者の減少

②流星の滝・銀河の滝



〈概要〉
2つの滝を眺望することが出来る園地。層雲峡観光のメインスポットであり、ピーク時は1日2000人以上の観光客が訪れる。
〈PRポイント〉
雄大な滝の景観
〈今後の活用案〉
双瀑台や園地とは違う場所から眺めることで、新たな見方で滝を楽しむ。
〈現状での課題点〉
・ピーク時のトイレ不足
・双瀑台までの整備不足

①大函園地



〈概要〉
柱状節理を隔てて眺めることが出来る園地。現在、小遊歩道の遊歩道は通行禁止。
〈PRポイント〉
雄大な柱状節理の景観
〈今後の活用案〉
柱状節理観察会
〈現状での課題点〉
通行止め区間

- 凡例
- ：園地
 - ★：ビジターセンター
 - ☺：滝
 - ：その他ポイント
 - ：旧道
 - ：登山道

顕著な柱状節理が見られる場所であるが、前藩が禁断されるため現在通行止め

①大函園地：
層雲峡から石北峠へ向かうルート上に位置する。

図 2-1-1 地域資源概要図 (層雲峡温泉エリア)

2) 歴史・文化資源

上川地区内における歴史・文化資源を表 2-1-2 に示す。なお、上川町内には道及び市町村指定の文化財はない。

表 2-1-2 上川地区内の主な歴史・文化資源

分類	資源名	概要
記念碑	大町桂月記念碑	層雲峡を命名した明治時代の文人・大町桂月の記念碑。層雲峡園地内に設置されている。
	行幸啓記念碑	銀河・流星の滝に設置されている。
展望台	エスポワールの鐘	上川町開基 90 周年事業の一環として 1984 年、上川公園に建設された展望台。「大雪山展望台エスポワールの鐘」とも呼ばれる。

3) 産業資源

上川地区内の主な産業資源を表 2-1-3 に示す。上川地区の主な農産物は、もち米、大根や馬鈴薯等(大雪高原野菜)が挙げられる。また、「ラーメン日本一の町」と謳っており、特産品として上川ラーメンのPRにも力を注いでいる。

表 2-1-3 上川地区の主な産業資源一覧

分類	資源名	概要
特産料理	ラーメン	ラーメン日本一の町として、地元飲食店等の有志が「ラーメン日本一の会」を設立し上川ラーメンの普及に努めている。
農産物	もち米	上川地区は全町もち米の専作生産団地である。作付け品種は、「はくちょうもち」と「風の子もち」である。
	大雪高原野菜	昼夜の寒暖差を活かして生産された野菜。作物の糖度が高いことが特徴。主な農産物は、大根、馬鈴薯等が挙げられる。
畜産物	溪谷・味豚	さっぱりとして柔らかい肉質が特徴の豚肉。上川町産もち米を飼料とし、飼育されている。
	大雪高原牛	農薬を一切使用していない牧草で放牧飼育された牛肉。子牛から成牛まで一貫して上川町で生産されている。
養殖産品	ニジマス	近年まで年間の生産量・生産金額ともに道内一の地位を保ち続け、層雲峡温泉の宿泊施設での料理用や、甘露煮などの土産物の加工食品用などに生産されている。
菓子	よもぎの里	町内でとれた新鮮なよもぎともち米を使用したよもぎもち。
	ベレルしっとりプリン・アイスクリーム	大雪山の麓で生産された牛乳が使用されているプリン。
	北どら	北海道産のあずきを使用したどら焼き。上川町内の北の森ガーデンで販売されている。
食肉加工品	山麓の四季	結着剤、増量剤、防腐剤、着色剤を使用しておらず、素材の味を活かしたハム・ソーセージ。

4) 年間行事

上川地区内における年間行事を表 2-1-4 に示す。

表 2-1-4 上川町における年間行事一覧

行事名	開催時期	開催場所	概要
花ものがたり	6月～10月	層雲峡温泉街	大型花壇、吊り鉢、プランター等で温泉街が多種多様な花で飾られる。
峡谷火まつり	7月	層雲峡温泉街	アイヌ民族の伝統行事に由来する祭り。火祭り太鼓、アイヌ古式のフクロウ神事、花火等のイベントが行われる。
黒岳登山記録会	9月	黒岳ロープウェイ	黒岳山頂までの自己タイムを記録する登山大会。参加者にはタイム入りの記録証と T シャツが贈呈される。
きのこたっぷり鍋まつり	9月～11月	イベント加盟宿泊施設	地場産のきのこを使った鍋料理を味わうことが出来る。
氷瀑まつり	1～3月	層雲峡温泉街	巨大な氷柱、氷のトンネル、アイスドーム等が見物出来る。花火やウェディングイベント等、期間中は様々なイベントが催される。

(2) 東川地区の地域資源

1) 自然環境資源

東川地区の山麓エリアにおける主な自然環境資源を表 2-1-5 に示す。また、地域資源概要図を図 2-1-2 に示す。なお、各資源の概要を整理した個票は資料編に添付する。

表 2-1-5 東川地区における主な自然環境資源一覧

分類	資源名	概要
滝	羽衣の滝	日本の滝百選に選定されている天人峡のメイン観光スポット。道指定記念物(名勝)にも選定されている。利用施設として園地や散策路が整備されている。滝の落差は 270m。
	敷島の滝	天人峡園地奥に位置する、羽衣の滝と並び天人峡におけるメイン観光スポット。現在、滝につながる散策路が土砂崩れのため通行止めとなっており、立入不可の状態である。
	駒止めの滝	勇駒別集団施設地区内に位置する滝。
柱状節理	—	天人峡は柱状節理の谷部に位置しているため、忠別川に沿って壮大な景観を楽しむことができる。七福岩、あまつ岩などの岩壁が続く。
ハイキングコース	クマゲラコース	クマゲラコース、ナナカマドコース、コマクサコースは旭岳温泉街内にある自然散策路。それぞれ見所や散策時間が異なる。ヒカリゴケコースは旭岳温泉と天人峡温泉をつなぐ唯一の散策路であるが、落石が懸念されるため現在通行不可となっている。
	ナナカマドコース	
	コマクサコース	
	ヒカリゴケコース	
沼地・湿地	わさび沼	冬季にクロスカントリーコースとして利用される自然探勝路内にあり、周辺の湿原では池塘などを見ることが出来る。特にカモ沼周辺は野鳥の宝庫であり、バードウォッチングに適した場所である。
	カモ沼	
	ひょうたん池 (ヒカリゴケコース内)	ヒカリゴケコース内に位置する沼地。静寂な雰囲気広がり、天気の良い日は旭岳を望むことが出来る。

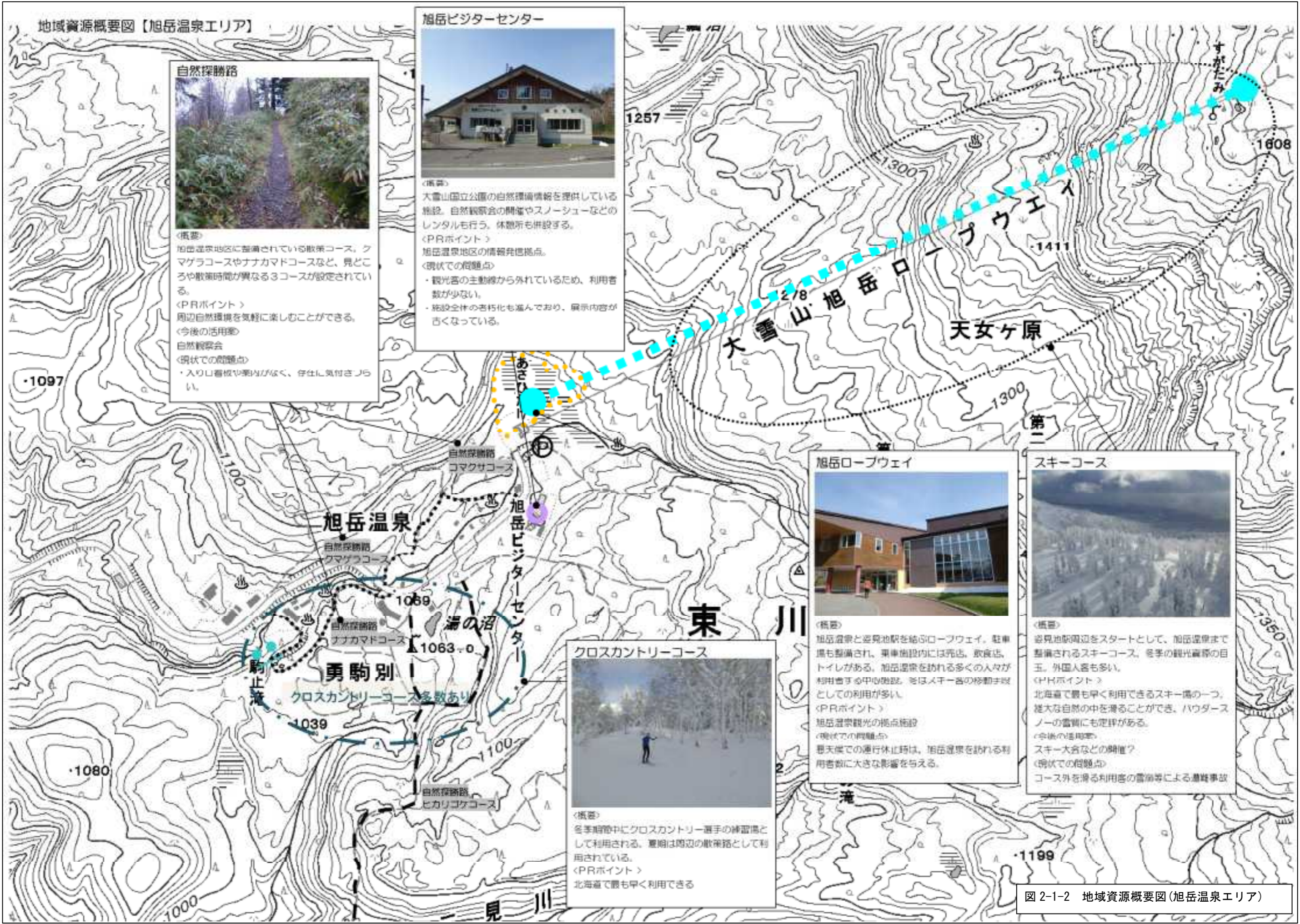


写真 2-1-3 羽衣の滝



写真 2-1-4 ヒカリゴケコース

地域資源概要図【旭岳温泉エリア】



自然探勝路



〈概要〉
旭岳温泉地区に整備されている散策コース。クマガイコースやナナカマドコースなど、見どころや散策時間が異なる3コースが設定されている。

〈PRポイント〉
周辺自然環境を気軽に楽しむことができる。

〈今後の活用案〉
自然観察会

〈現状での課題点〉
・入り口看板や案内がなく、存分に気付きづらい。

旭岳ビジターセンター



〈概要〉
大雪山国立公園の自然環境情報を提供している施設。自然観察会の開催やスノーシューなどのレンタルも行う。休憩所も併設する。

〈PRポイント〉
旭岳温泉地区の情報発信拠点。

〈現状での課題点〉
・観光客の主動線から外れているため、利用者数が少ない。
・施設全体の老朽化も進んでおり、展示内容が古くなっている。

旭岳ロープウェイ



〈概要〉
旭岳温泉と遊見池駅を結ぶロープウェイ。駐車場も整備され、乗車施設内には売店、飲食店、トイレがある。旭岳温泉を訪れる多くの人々が利用する中心施設。冬はスキー客の移動手段としての利用が多い。

〈PRポイント〉
旭岳温泉観光の拠点施設

〈現状での課題点〉
悪天候での運行休止時は、旭岳温泉を訪れる利用者数に大きな影響を与える。

スキーコース



〈概要〉
遊見池駅周辺をスタートとして、旭岳温泉まで整備されるスキーコース。冬季の観光資源の目玉。外国人客も多い。

〈PRポイント〉
北海道で最も早く利用できるスキー場の一つ。雄大な自然の中を滑ることができ、パウダースノーの雪質にも定評がある。

〈今後の活用案〉
スキー大会などの開催?

〈現状での課題点〉
コース外を滑る利用客の雪崩等による遭難事故

クロスカントリーコース



〈概要〉
冬季期間中にクロスカントリー選手の練習場として利用される。夏期は周辺の散策路として利用されている。

〈PRポイント〉
北海道で最も早く利用できる

図 2-1-2 地域資源概要図(旭岳温泉エリア)

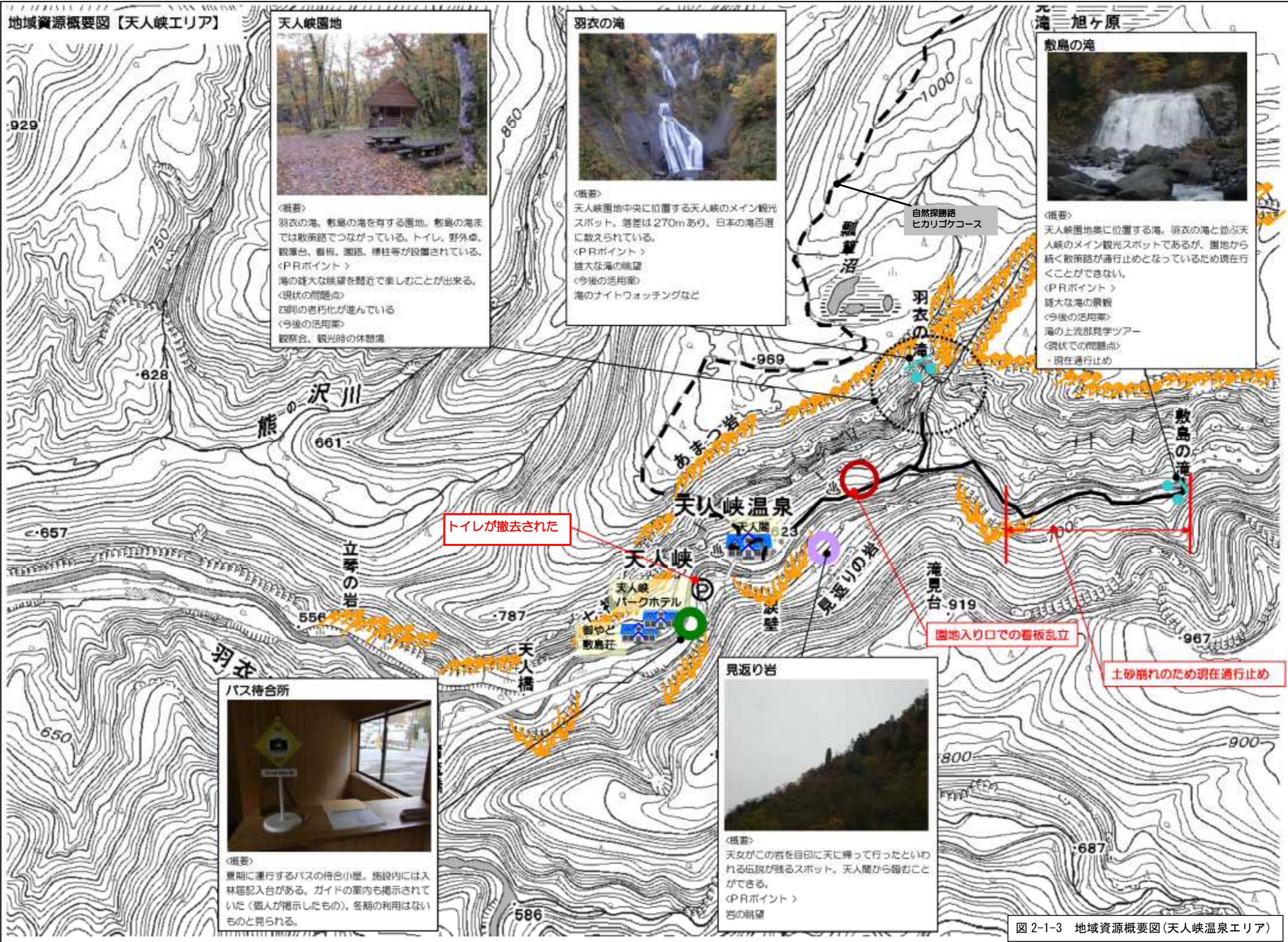


図 2-1-3 地域資源概要図(天人峡温泉エリア)

2) 歴史・文化資源

東川地区内における歴史・文化資源を表 2-1-6・表 2-1-7 に示す。東川町内においては、道指定記念物として羽衣の滝が選定されている他、市町村文化財としてミズナラ、イチイ等の樹木、開拓記念碑等が選定されている。

表 2-1-6 東川地区内の主な歴史・文化資源一覧(1)

指定区分	分類	資源名	概要	選定年月日
道指定文化財	史跡名勝記念物	羽衣の滝	天人峡温泉に位置し、日本の滝百選にも選定されている。※自然環境資源としての概要は資料編の個票参照	S26.9.6
市町村 指定文化財	天然記念物	ミズナラ(群生)	工場地内公園内にあり、指定時推定樹齢 154~275 年と見られる。	H5.9.2
		イチイ(5 本)	いずれの木も指定時推定樹齢約 280 年以上と見られる。	・S51.10.1 ・S44.11.23
		カシワ(群生)	東川神社境内に散在し、指定時推定樹齢約 250~260 年と見られる。	S44.11.23
		五葉松(2 本)	指定時推定樹齢約80年以上と見られる。高さ3m、木廻り0.65m。	・S44.11.23 ・S51.10.1
		マイタヤ	指定時推定樹齢150年以上と見られる。高さ18m、木廻り2.74m。	S44.11.23
		ハイマツ	指定時推定樹齢130年以上と見られる。高さ2.50m、木廻り0.40m。	S44.11.23
		シンパク	指定時推定樹齢約100年以上と見られる。高さ2m、木廻り0.37m。	S44.11.23
	有形文化財 (建造物)	相馬妙見宮	明治 33 年、開拓先駆者である細川久八氏により建立された。	S46.10.1
		土蔵	推定では大正 10~11 年頃に建築された。建築時の原形をそのまま留めている。	S60.4.1
		明治の家	明治 44 年、香川県人、尾田松造氏により東川町西 7 号南 5 番地に民家として建築された。	S62.11.11
		大正の家	大正 14 年、棟梁菅原徳助により建築された。木造入母屋茅葺としては、北海道では珍しい。	H18.7.21
	有形文化財 (美術工芸品)	園田仁右衛門翁碑	園田氏は明治 31 年東川に移住、開拓に従事した。広部農場管理の功を称え建立されたもの。	S46.10.1
		岡本篤太郎氏碑	岡本氏は明治28年4月、徳島県より東川に入植。数多くの功を称え建立されたもの。	S46.10.1

表 2-1-7 東川地区内の主な歴史・文化資源一覧(2)

指定区分	分類	資源名	概要	選定年月日
市町村 指定文化財	有形文化財 (美術工芸品)	開拓記念碑 (2基)	明治28年、日比野堅次郎氏が愛知県より北海道に渡り、29年忠別原野に移住。これを記念して建立されたものである。	S46.10.1
	無形文化財	東川氷土会	昭和40年12月に氷彫刻技術者により結成、日本の氷彫刻は、氷土会の創設者が中心となって日本氷彫刻会を立ち上げた経緯がある。40余年継続してきた氷彫刻の技術等は、文化財として特に貴重なものと評されている。	H21.3.26
	民族文化財 (無形)	北海道東川町郷土 芸能羽衣太鼓保存 会	昭和44年に有志が集まり発足、「羽衣の滝」の流れのようなバチ捌きから「羽衣太鼓」と命名され40周年を迎えている。東川を太鼓で表現する「羽衣太鼓」は、郷土芸能として特に貴重なものと評されている。	H21.3.26

3) 産業資源

東川地区の主な産業資源を表 2-1-8 に示す。東川町は大雪山の湧水に恵まれ、道内有数の米どころである。木工業も盛んであり、東川町内にはアトリエや工房が点在する。

表 2-1-8 東川地区の主な産業資源一覧

分類	資源名	概要
農産物	米	東川地区は冷涼な気候と大雪山の湧水を活かした米づくりが盛ん。作付け品種は「ほしのゆめ」、「きらら397」等が挙げられる。
飲料・酒類	旭岳源水	大雪山の雪解け水が長い年月を掛けて流れ出ているもの。水温は年間を通して7度に保たれている。毎分4600リットルもの量が湧出し、東川町の水道はすべてこの地下水である。湧水地において無料(協力金制)で取水可能で、ボトルリングされ全国向けに販売も行われている。
	舞羽衣	東川町で生産されたきらら397で造られた日本酒。
	大雪清流物語	東川町で生産された葡萄を100%使用しているワイン。
工芸品	木工クラフト・陶芸	木工クラフト・陶芸等を創作する人が移住し、東川町内に数々のアトリエを設けている。製作品は町内の工芸品店やカフェでも販売されている。
	家具	全国的に流通している旭川家具の生産全体に占める約30%が東川町で生産されている。

4) 年間行事

東川地区区内における年間行事を表 2-1-9 に示す。

表 2-1-9 東川町における年間行事一覧

行事名	開催時期	開催場所	概要
くらし楽しくフェスティバル	5月、9月	キトウシ森林公園	野菜苗、山菜、物産の販売や、大規模フリーマーケット等が開催される。
ヌプリコロカムイノミ(山の祭り)	6月	旭岳温泉・青少年野営場	登山客の安全祈願と観光地の繁栄を祈願する祭り。バーベキューパーティーやアイヌ民族による踊りや民族楽器の演奏などが行なわれる。
東川町国際写真フェスティバル	7月	東川町農村環境改善センター(公民館)	国際写真賞<東川賞>の授賞式を中心に、国内外からのゲストを招いて作品展示・ワークショップ・フォーラム等を開催するほか、アマチュアカメラマン、大学生などが独自に企画する展覧や子供たちの写真展等が行なわれる。
写真甲子園	7月	東川町・美瑛町・上富良野町・周辺フィールド一帯	高校写真部の全国大会。全国8ブロックから選ばれた代表14校の選手が、東川町、美瑛町、上富良野町をフィールドとして撮影を行う。
どんとこい祭り	7月	羽衣公園	約2千発の大花火大会や仮装パレード、子供ゲーム、歌謡ショーなどを実施する。フォトフェスタ、写真甲子園とも同時開催される。
大雪山忠別湖トライアスロンinひがしかわ	8月	忠別湖	忠別湖で開催されるスポーツイベント。コースの短いジュニア向けの大会もある。
大雪清流てっぺん祭り	8月	J Aひがしかわ広場	東川産の農産物を中心とした販売や大抽選会、歌謡ショー等を実施する祭り。
ひがしかわ氷祭り	1月	羽衣公園	氷彫刻や大雪像、アイスキャンドルが設置される。その他、雪上綱引き大会や真冬の花火大会が開催される。

(3) 山岳地域の地域資源

上川地区及び東川地区の山岳地域における地域資源概要図を、図 2-1-4 に示す。

1) 現地概要

上川地区、東川地区に関連する山岳エリアは、北海道の最高峰である旭岳(2,291m)を中心として、次いで高峰となる北嶺岳、黒岳、白雲岳等が含まれる。これらの山岳は 2,000m 前後の標高であるが、高緯度に位置するため本州の 3,000m に匹敵する高山環境を有している。そのため山頂部では夏期でも雪渓が残されているほか、構造土群や高山植物の花畑が点在している。

現地の問題点として、登山道周辺における土壌浸食、裸地化の拡大が挙げられる。特に、黒岳石室から北嶺岳、黒岳から北海岳にかけての区間は荒廃が著しく、周辺植生への影響が懸念される。なお、登山道の状況については、「2-5 利用施設等の状況(3) 歩道の状況」の項に詳細を示す。

2) 利用施設

エリア内には黒岳石室、白雲岳避難小屋、旭岳石室(緊急時以外宿泊不可)の 3 箇所の避難小屋があるほか、裏旭野営指定地、白雲岳野営指定地、黒岳石室野営指定地の 3 箇所の野営指定地がある。



写真 2-1-5 旭岳



写真 2-1-6 構造土



写真 2-1-7 お鉢平(有毒温泉)



写真 2-1-8 黒岳石室

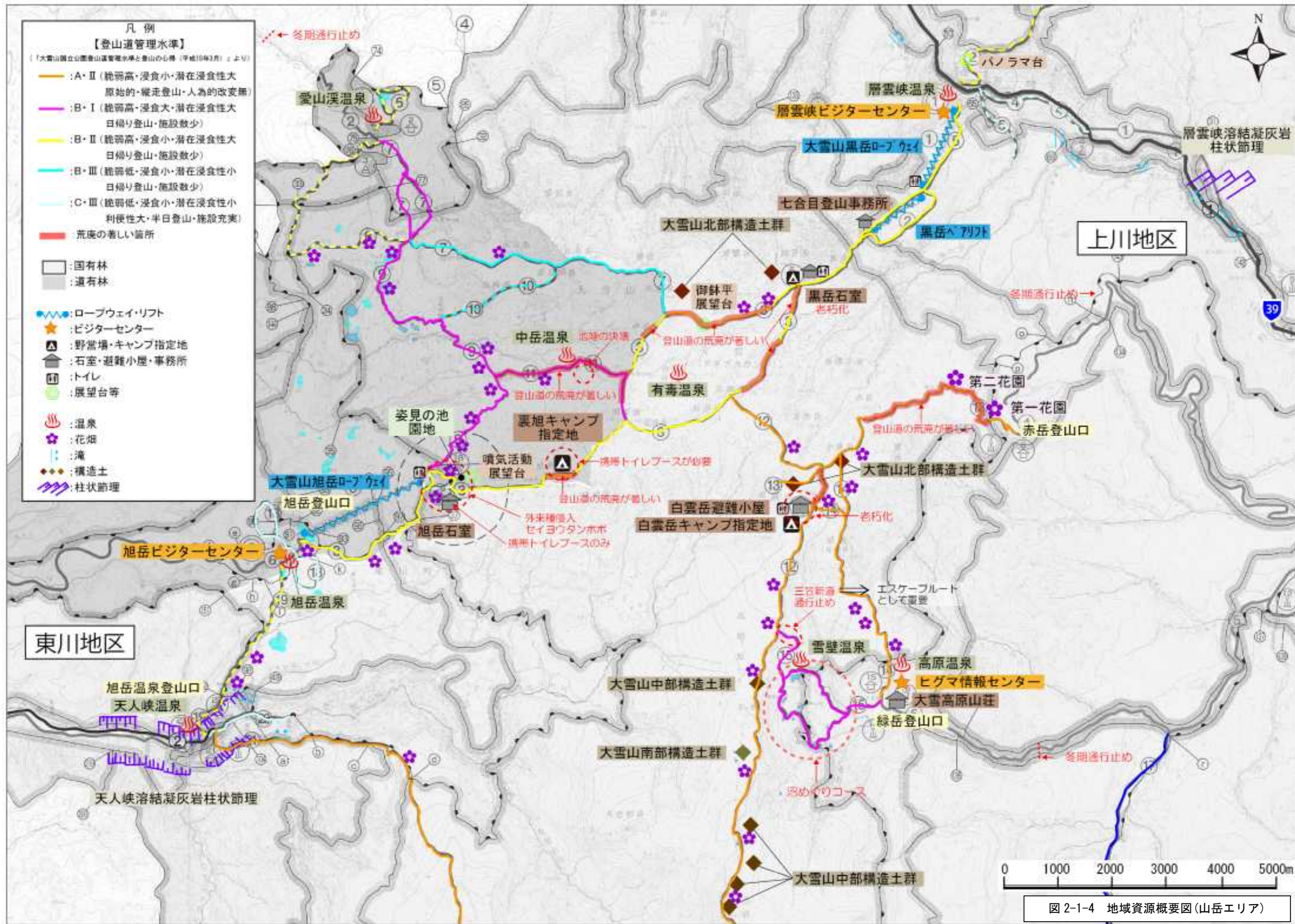


図 2-1-4 地域資源概要図(山岳エリア)

2-2 権利制限関係

大雪山国立公園における権利制限を下記に整理する。

(1) 自然公園法等及び森林法

大雪山国立公園における自然公園法に基づく地種区分及び土地所有面積状況を表 2-2-1 に、各市町村の地種区分面積を表 2-2-2 に示す。また、国立公園計画図を図 2-2-1 に示す。

十勝川源流部を含める 36,807ha が特別保護地区に指定されており、自然公園法に基づき厳しい行為規制が設けられている。

土地所有状況は、ほとんどの地域が国有地(94.7%)あるいは公有地(4.3%)であり、私有地はわずか 2,098ha である。大半は林野庁が所有しているが、旭岳から愛山溪にかけては北海道(上川総合振興局南部森林室)が所有している。

大雪山国立公園区域に含まれる市町村は計 10 市町村であり、上川町は全体の 23.7%を、東川町は 4.5%を占めている。

表 2-2-1 大雪山国立公園の地種区分と土地所有面積状況

区分	面積(ha) (%)	国有地(ha)	公有地(ha)	私有地(ha)
特別保護地区	36,807(16.3)	34,267	2,540	0
第 1 種特別地域	29,566(13.0)	28,041	1,519	5
第 2 種特別地域	22,271(9.8)	19,763	1,529	979
第 3 種特別地域	94,848(41.8)	94,469	184.2	194.6
普通地域	43,272(19.1)	37,927	4,425	919.9
合計	226,764 (100)	214,466	10,199	2,098

(出典：第 1 回大雪山国立公園管理計画検討会資料)

表 2-2-2 大雪山国立公園に関わる各市町村の地種区分面積(面積：ha)

市町村名	特別保護地区	特別地域			普通地域	合計	国立公園に占める割合
		第 1 種	第 2 種	第 3 種			
富良野町	1,298	1,035	0	276	835	3,444	1.5%
上川町	8,724	8,663	5,768	30,564	0	53,719	23.7%
東川町	3,021	1,554	2,270	0	3,410	10,255	4.5%
美瑛町	10,045	4,318	66	2,255	5,512	22,196	9.8%
上富良野町	1,060	1,194	283	559	1,923	5,019	2.2%
南富良野町	1,012	1,425	0	1,423	1,830	5,691	2.5%
士幌町	0	65	0	231	601	897	0.4%
上士幌町	1,191	6,034	6,222	29,104	8,923	51,475	22.7%
鹿追町	0	994	3,597	7,144	4,566	16,300	7.2%
新得町	10,456	4,285	4,064	23,292	15,672	57,768	25.5%

(出典：第 1 回大雪山国立公園管理計画検討会資料)

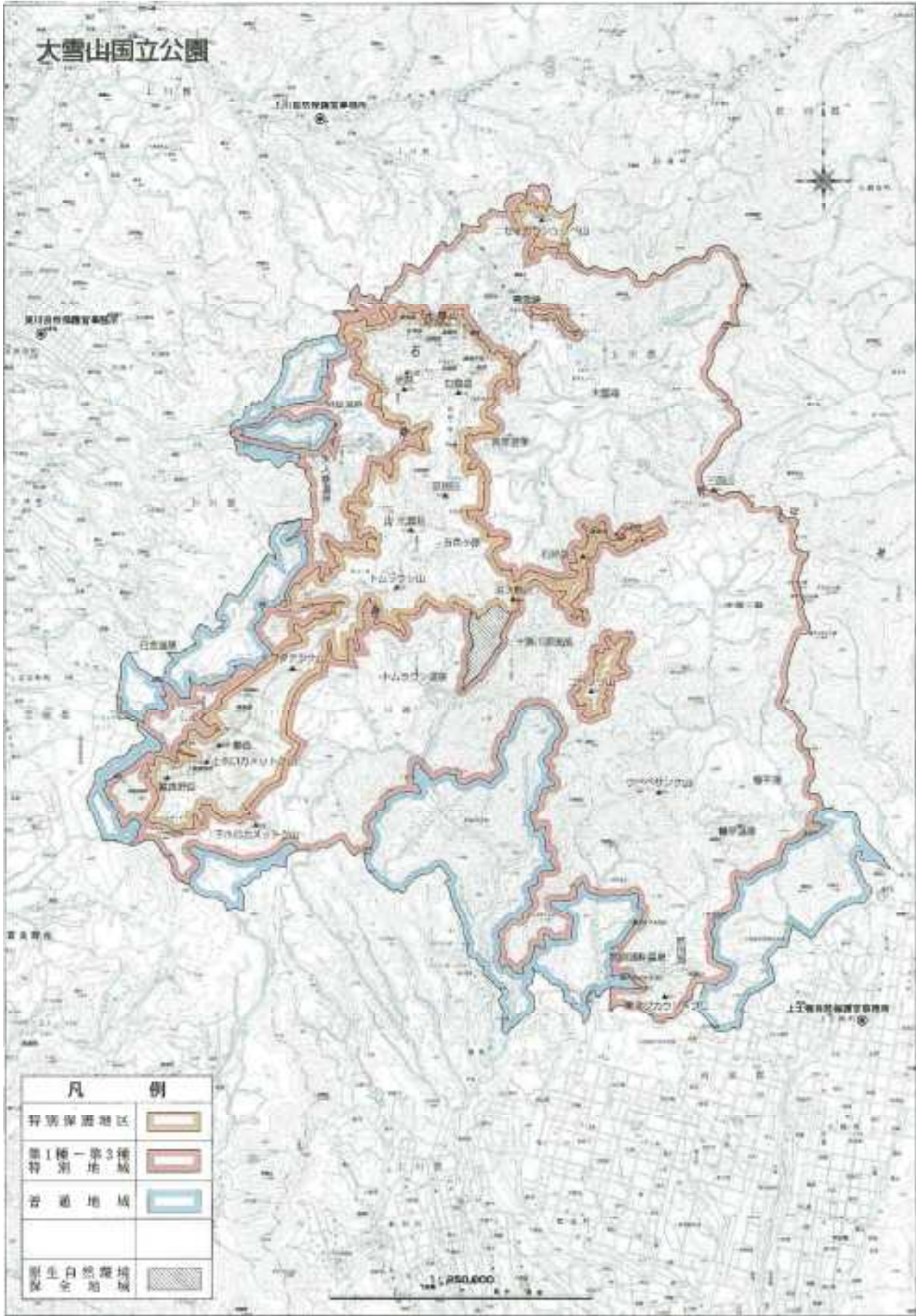


图 2-2-1 大雪山国立公園計画図

(2) 文化財保護法

文化財保護法により、大雪山国立公園は国指定記念物の天然保護区域、さらに特別天然記念物として指定されており、本公園の約 10%強が対象となっている。

昭和 46 年に、保護すべき天然記念物に富んだ天然保護区域の指定を受けた。さらに昭和 52 年に、世界的及び国家的に価値が高いものとして特別天然記念物に指定変更され、区域内に生息する動植物、地質鉱物等は厳重な保護が図られている。

(3) 鳥獣保護法

鳥獣保護法により、大雪山国立公園内の約 19%が鳥獣保護区に指定されている。山岳部の 35,534ha が国指定鳥獣保護区に、山麓地域の 9 箇所の地区が道指定鳥獣保護区に指定され、鳥獣の保護と生物多様性の確保が図られている。

2-3 利用状況

(1) 業務対象地全体の利用状況

本業務地全体の利用者の動向を以下に示す。

1) 北海道全体における利用者の動向

- 北海道全体の観光入込客数は、平成 20 年度に激減、以降緩やかに減少していたが、平成 22 年度に回復に転じた。
- 平成 22 年度に回復したのは、道内客が増加したためである。
- 北海道全体における外国人入込客数は、平成 20～21 年度に一旦減少しているが、平成 22 年度には再び増加しており、平成 22 年度に統計開始(平成 9 年度)以来、最高の入込客数を記録している。

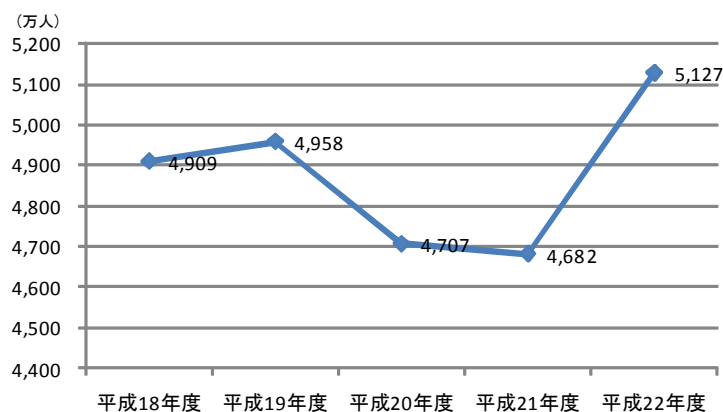


図 2-3-1 北海道観光入込客数の推移

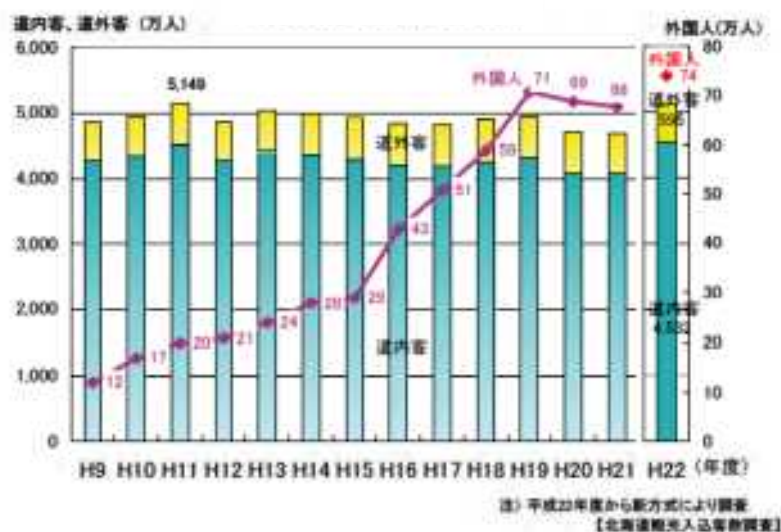


図 2-3-2 北海道外国人観光入込客数推移

(出典：北海道 HP)

2) 上川管内中部における利用者の動向

- 東川町と上川町を擁する上川総合振興局中部(8市町村)における平成22年度の各市町村別観光入込客数の前年比は、旭川市において95.4%、鷹栖町において64.4%、東神楽町において100.9%、当麻町において97.4%、比布町において89.6%、愛別町において91.3%、上川町において94.9%、東川町において105.3%と、東神楽町と東川町以外では減少傾向がみられる。
- 外国人宿泊者数は平成21年度に著しく減少したものの、平成22年度には回復傾向が見られる。

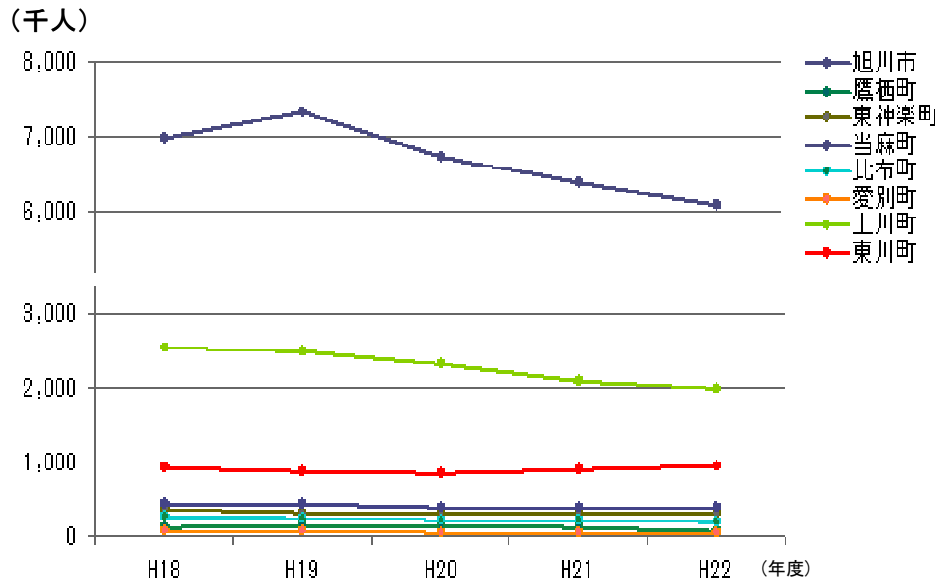


図 2-3-3 上川管内中部各市町村別観光客入込数の推移

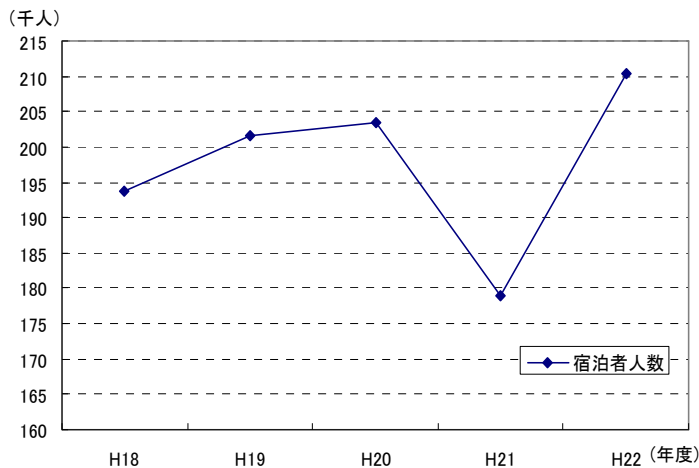


図 2-3-4 上川管内中部外国人宿泊者数の推移



図 2-3-5 上川総合振興局管内図

(出典：上川総合振興局 HP)

3) 利用者の旅行形態及び目的（北海道全体）

- ルートの決まったパッケージツアーは減少傾向であるが、フリープラン*のパッケージツアー及びパッケージツアーではない形態のツアーが増加傾向である。
- 来訪者別の観光目的は、道内客は「観光地名所巡り」が 32.7%、道外客は「自然観賞」が 20.7%、外国人は「自然観賞」が 67.1%と、道外客と外国人は「自然観賞」が観光目的として最も多い。道内客についても、1位の「観光名所巡り」より 2.4%少ないが、「自然と触れ合う」が観光目的として3位に挙げられている。

※フリープラン：添乗員の同行はなく、所定の往復の交通と宿泊のみで構成されるツアー

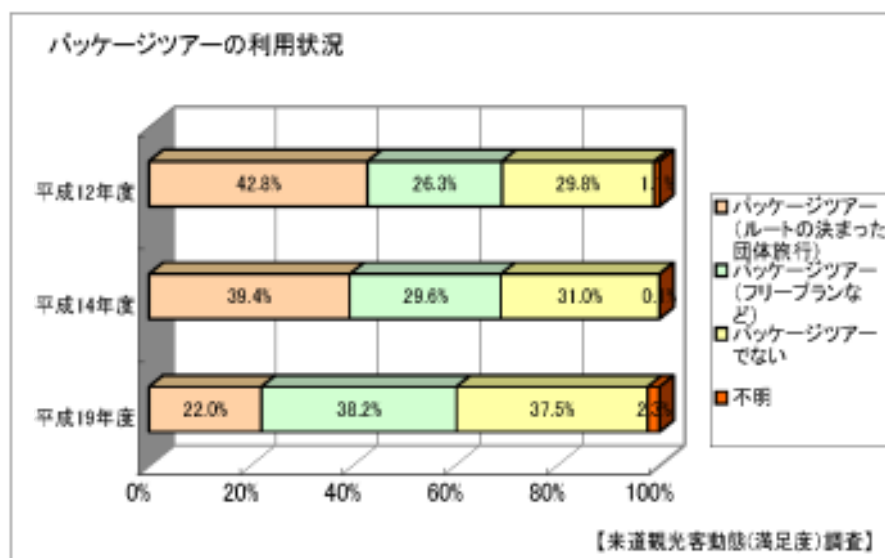


図 2-3-6 利用者の観光目的

表 2-3-1 利用者区別観光目的(上位3位)

区分	1位	2位	3位
道内客	観光名所巡り(32.7%)	温泉・保養(31.2%)	自然と触れ合う(30.3%)
道外客	自然観賞(20.7%)	都市見物(観光地巡り) (17.1%)	イベントの参加・見学 (11.6%)
外国人	自然観賞(67.1%)	温泉・保養(60.6%)	買い物(49.6%)

(出典：北海道 HP)

4) 大雪山国立公園における利用者の動向

- 大雪山国立公園全体で、利用者は減少傾向である。
- 層雲峡集団施設地区は平成 21 年に利用者の減少が著しい。
- その他の集団施設地区は、ほぼ横ばいである。

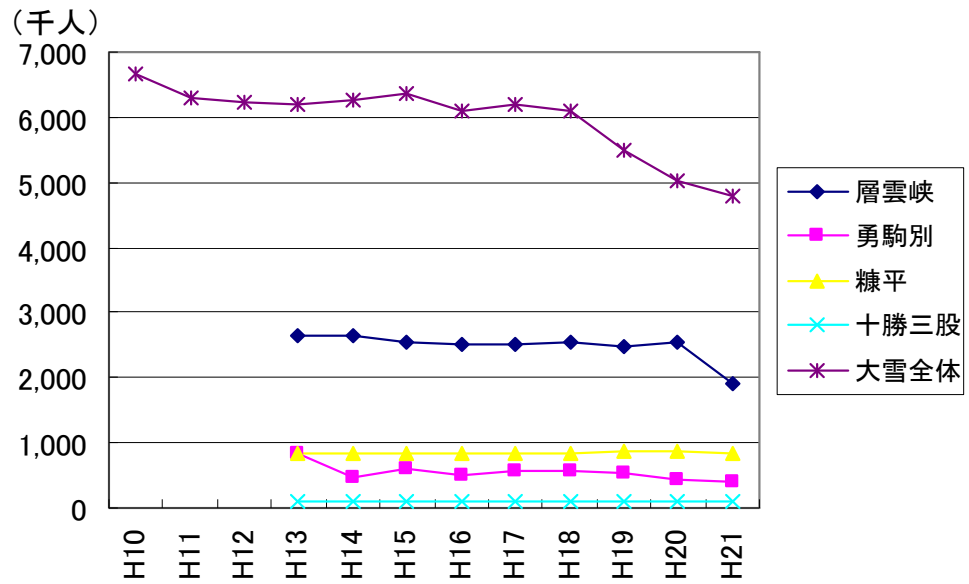


図 2-3-7 大雪山国立公園集団施設地区別利用者数の推移

(出典：環境省 HP)

(2) 上川地区の利用状況

上川町の利用者の動向を以下に示す。

1) 上川町における利用者の動向

- 上川地区全体において観光入込客数は減少傾向である。
- 日帰り客が観光入込客数の64.5%を占める。
- 道外客が観光入込客数の66.3%を占める。
- 季節別の観光入込客数は、夏期(6~9月)に年間総数の51.6%を占める。
- 外国人旅行者の約95%はアジアからの来訪である。

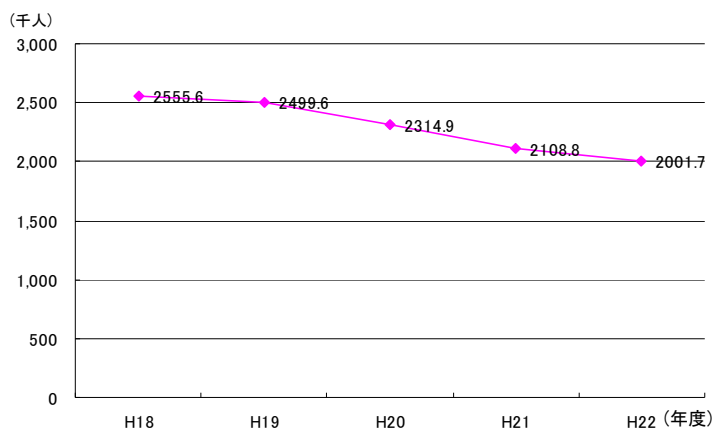


図 2-3-8 上川地区観光客入込数推移

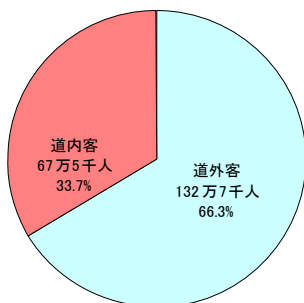


図 2-3-9 道内・道外客の割合
(平成 22 年度)

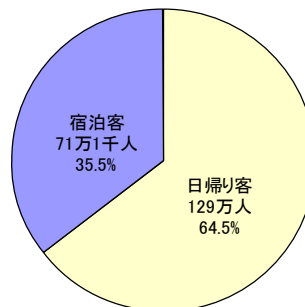


図 2-3-10 宿泊・日帰り客の割合
(平成 22 年度)

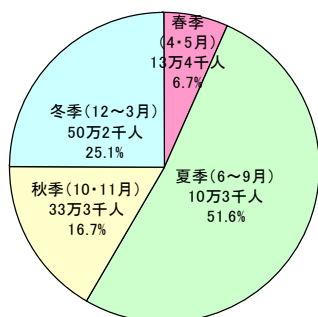


図 2-3-11 季節別観光入込客数の割合
(平成 22 年度)

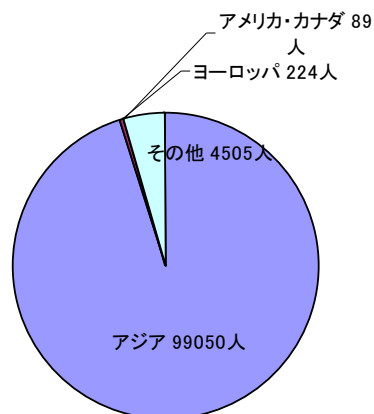


図 2-3-12 外国人来訪者の国別割合
(平成 22 年度)

(出典：上川総合振興局 HP)

2) 層雲峡地区における利用者動向

- ・層雲峡の観光客入込客数は全体的に減少傾向である。平成 20 年度の入込客数の減少が著しいが、宿泊者数においては著しい減少変化は見られない。
- ・外国人観光客は冬期の来訪が多く、冬期の宿泊者数の約 22%を占めている。
- ・上川地区の観光入込客は、ほぼ 100%を層雲峡の観光客で占めている。

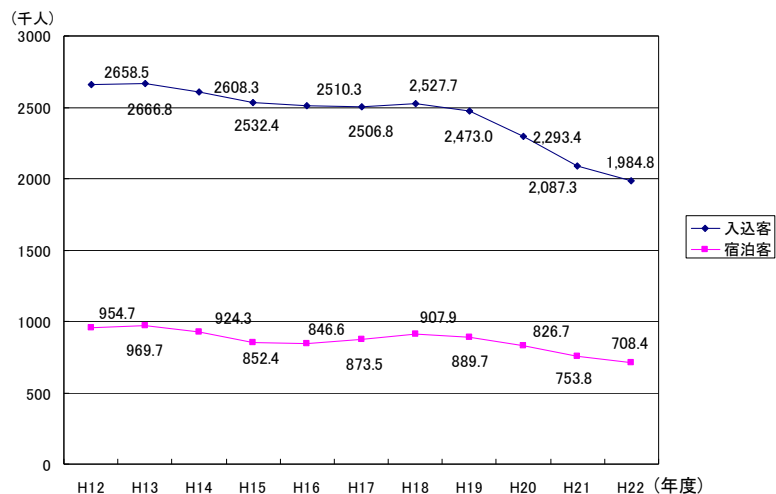


図 2-3-13 層雲峡観光入込客数年別推移

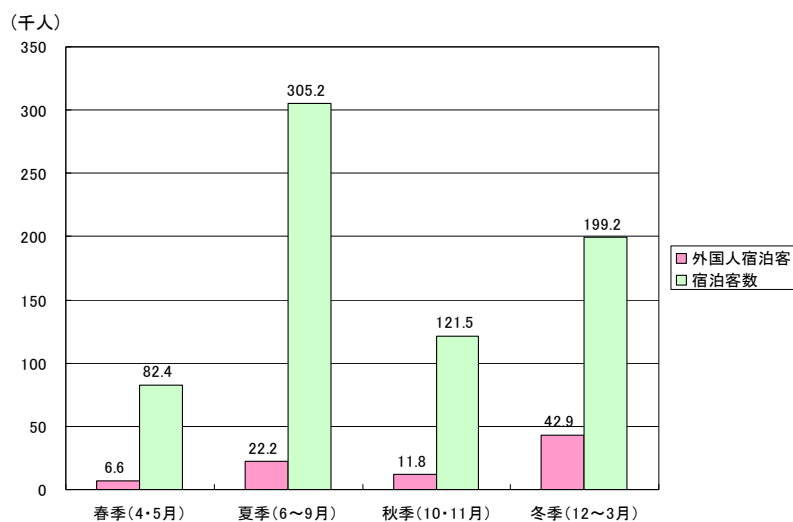


図 2-3-14 平成 21 年度 層雲峡宿泊者数と外国人宿泊者数月別推移

表 2-3-2 平成 22 年度 上川地区内観光入込客数

層雲峡	高原温泉	愛山溪	計 (%)
1,984,825 人(99.1%)	13,185 人(0.7%)	3,652 人(0.2%)	2,001,662 人(100%)

※表内(%)は上川町全体の客数に占める割合

(出典：上川町統計)

(3) 東川地区の利用状況

東川町の利用者の動向を以下に示す。

1) 東川町における利用者の動向

- 東川地区全体において、観光入込数は平成 19～20 年度に減少したものの、翌年には回復し増加傾向である。
- 道内客が観光入込客数の 80.4%を占める。
- 日帰り客が観光入込客数の 84%を占める。
- 季節別の観光入込客数は、夏期（6～9月）に年間総数の 48.8%を占める。
- 外国人旅行者の 74%はアジアからの来訪である。

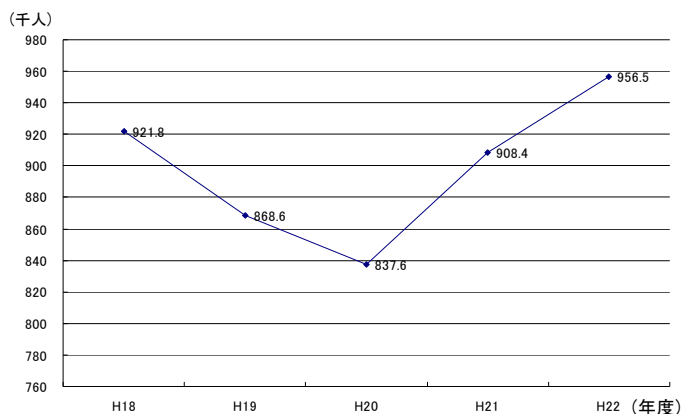


図 2-3-15 東川地区の観光入込客数推移（平成 22 年度）

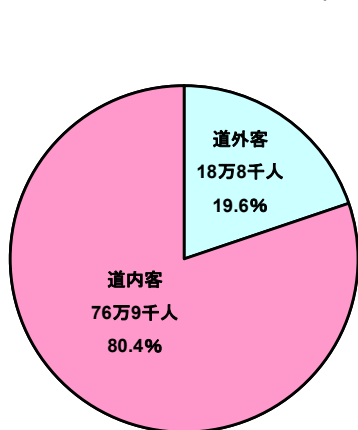


図 2-3-16 道内・道外客の割合（平成 22 年度）

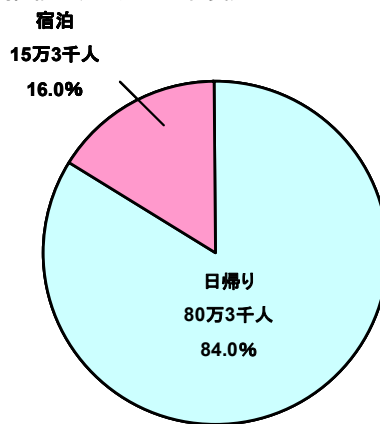


図 2-3-17 宿泊・日帰り客の割合（平成 22 年度）

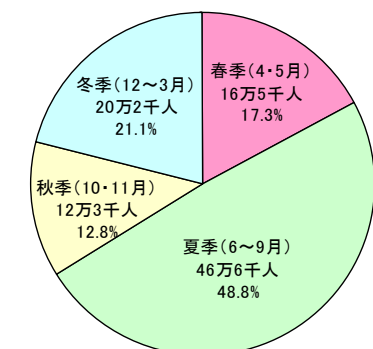


図 2-3-18 季節別観光入込客数の割合（平成 22 年度）

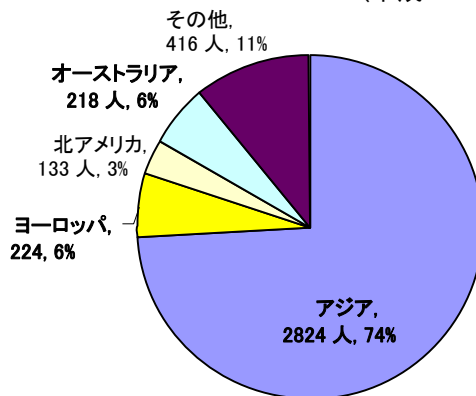


図 2-3-19 外国人来訪者の国別割合（平成 22 年度）

（出典：上川総合振興局 HP）

(4) 山岳地帯の利用状況

表大雪地域における登山者の入込数及び利用ルートの実態把握調査の結果を示す。調査概要及び調査結果を以下に示す。

※「平成15年度大雪山国立公園における利用情報等調査検討業務報告書」より山岳地帯の利用状況を集約。

1) 調査概要

調査概要を以下に示す。

- 調査期間：2003年6月～10月
- 調査場所：表大雪地域(図2-3-20参照)
- 調査方法：以下の3つの方法により実施した。

〈赤外線カウンター〉

表大雪における主要ルート上に13台を設置し、通過者をカウントする。調査期間は7月上旬から10月初旬まで。データ精査は入林届とのデータ照合により行う。

〈入林届の分析〉

表大雪における主要な10の登山口を有する国有林及び道有林の各管理者より入林届を取り寄せ、データを集計・分析する。

〈その他〉

観光協会及びビジターセンターの集計数値反映、ボランティアによる既存調査結果の反映等。

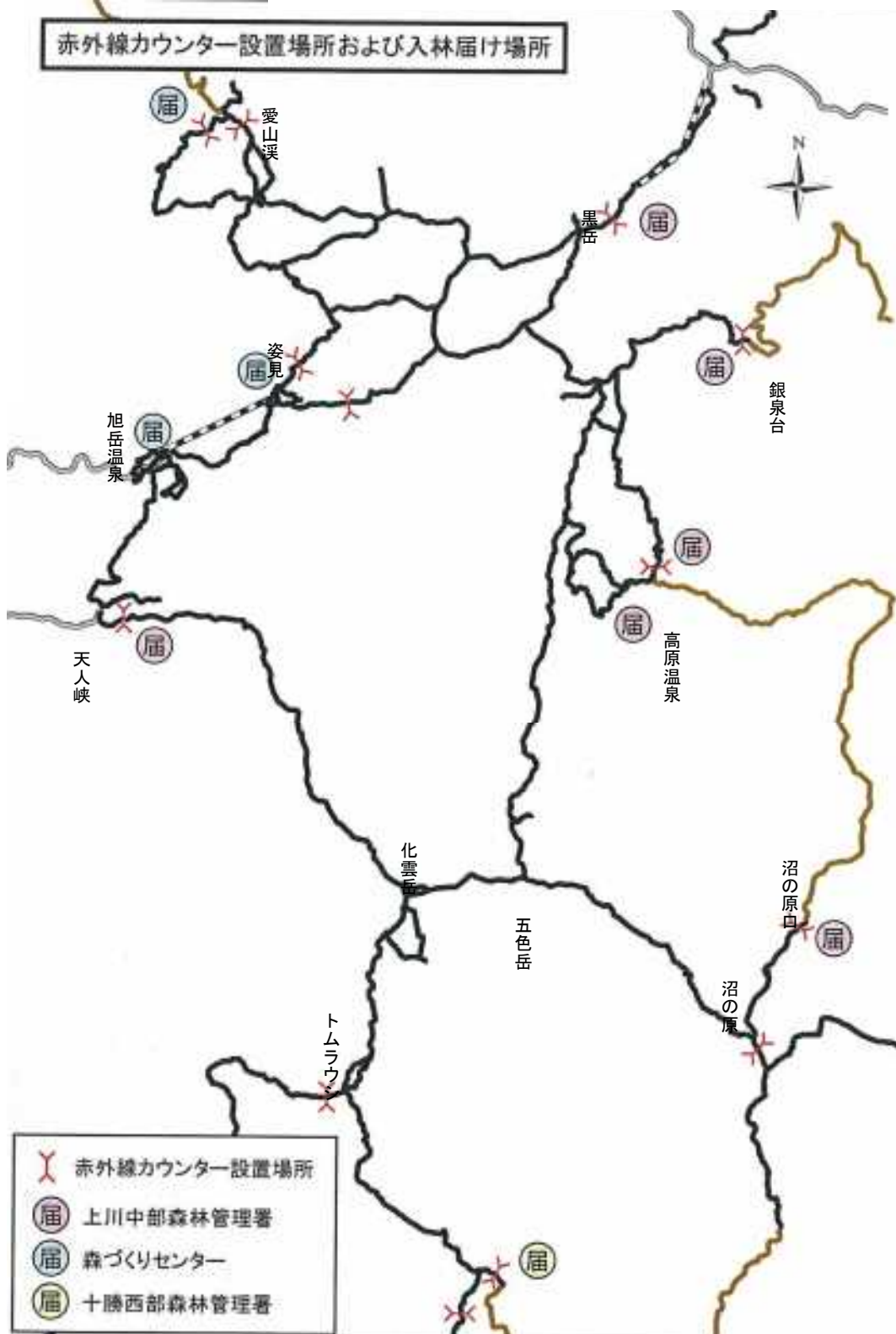


図 2-3-20 赤外線カウンター設置場所と入林届けデータ採取場所
 (平成 15 年環境省大雪山登山道検討委員会資料より)

2) 調査結果

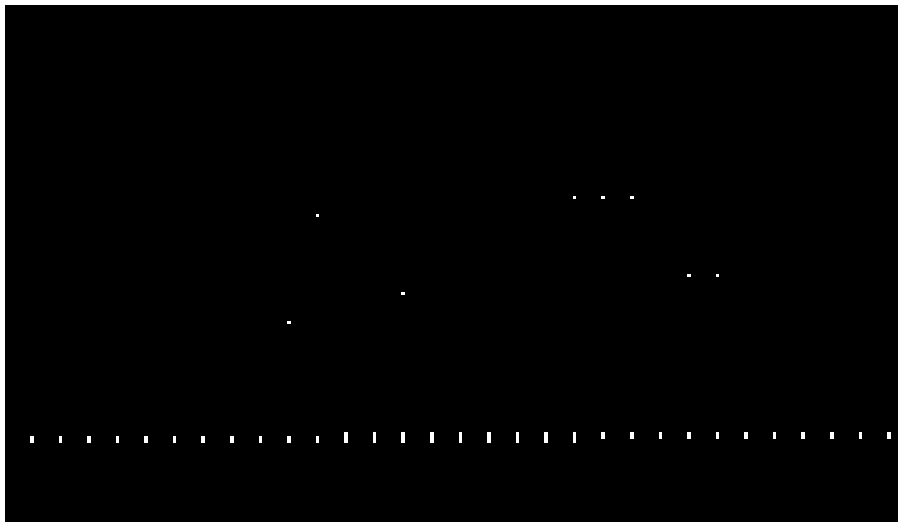
調査結果を以下に示す。

①表大雪地域における想定登山者数

調査の結果、表大雪地域における登山者は、総計約118,000人と想定された。

- 入林届総件数(10箇所計)：29,800件(パーティー数)
- 有効数・総計人数：約26,600件・約85,700人
- 1パーティーあたり平均人数：3.2人
- 想定登山者数(各登山口での記帳率から逆算)：約118,000人

表 2-3-3 登山口別記帳率



②表大雪における路線別の入込数

表2-3-3の記帳率を用いて統計人数の補正を行い、路線別の入込数を算出した。入込数字は上り下りを合せた数字である。各路線の入込数概算を図2-3-21及び以下に示す。旭岳～愛山溪地区については、さらにデータを精査したものを図2-3-22に示す。

最も利用者の多い路線は黒岳7合目～黒岳までで、入込数は約57,600人と推定された。

また、ロープウェイ利用者数を以下に併せて示す。利用者数は切符の販売数から登りのみの値を推定し、算出した。情報はロープウェイ運営会社からの提供によるものである。

黒岳及び旭岳の利用者数及びロープウェイ利用者数の比較結果から、姿見周辺の散策及び黒岳7合目の散策で帰ってしまう観光客が圧倒的に多いと推測出来る。

- 黒岳7合目～黒岳：約57,600人(黒岳ロープウェイ利用者数：240,000人)
- 高原沼巡り：約36,500人
- 銀泉台～赤岳：約31,300人
- 姿見～旭岳：約29,000人(旭岳ロープウェイ利用者数：約150,000人)
- 短縮登山口～トムラウシ山：約7,900人

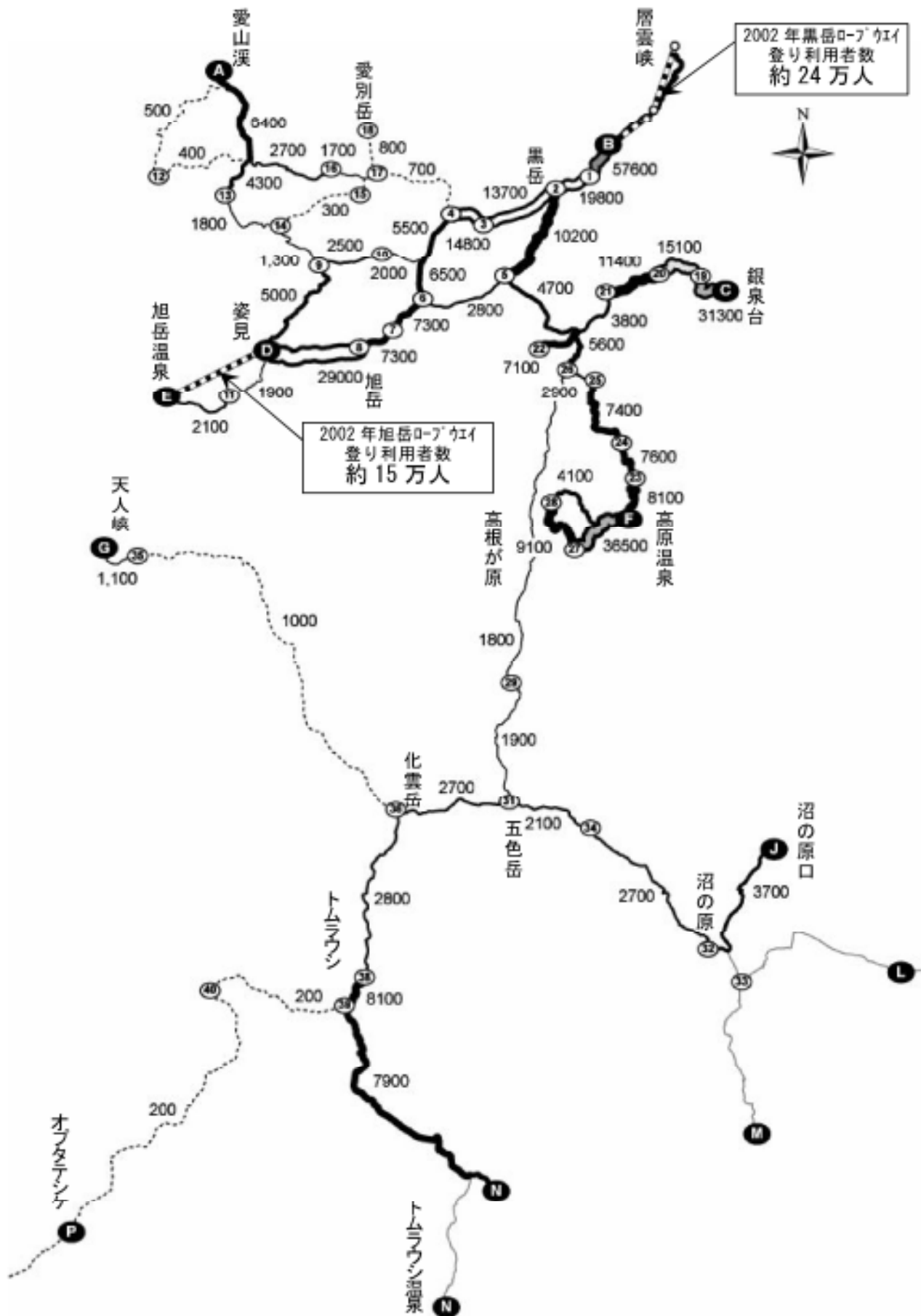
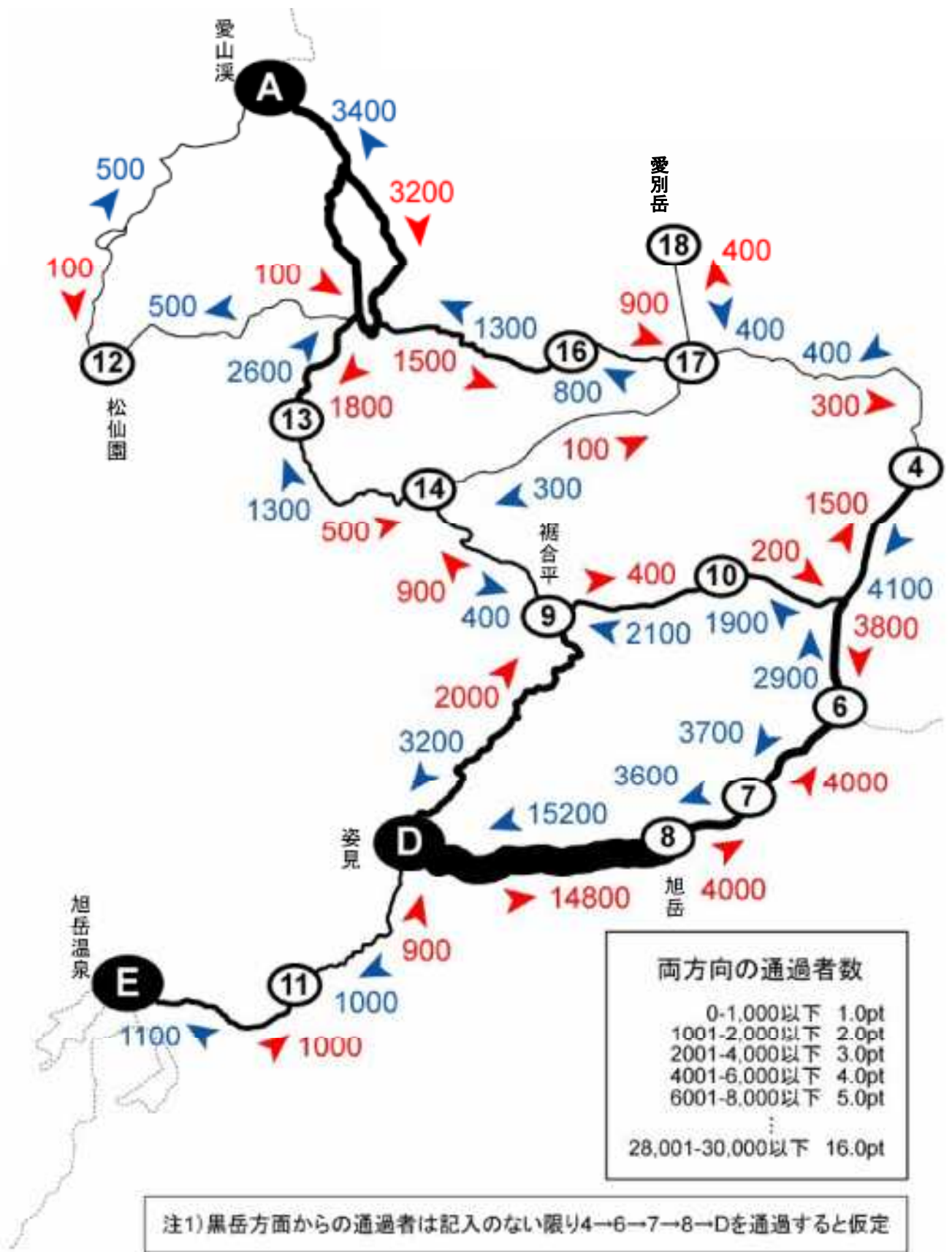


図 2-3-21 入林届と赤外線カウンターから推計した通過者数(2003年6月~10月)



(平成15年度環境省登山道検査調査より)

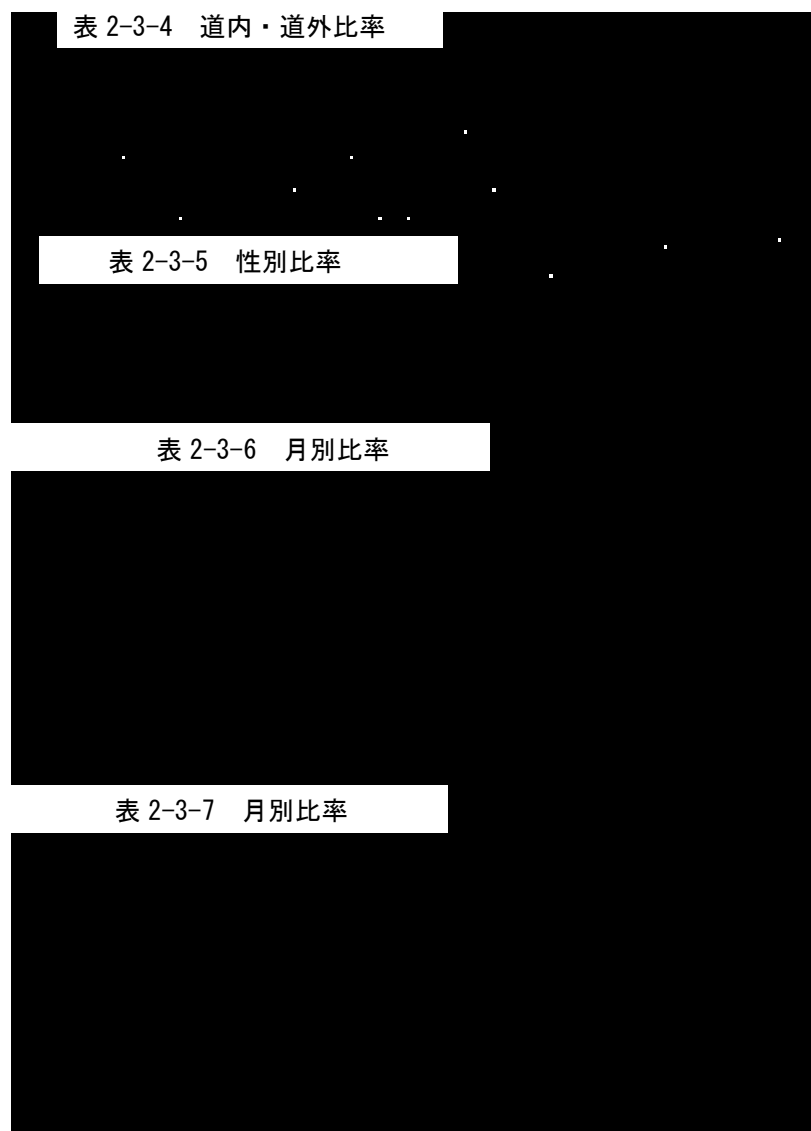
図 2-3-22 旭岳～愛山溪地区の入林届と赤外線カウンターの値から推定した地域予想通過者数 (2003年6月～10月)

③登山者の属性分析

表大雪の10箇所の登山口で記帳された約29,800件の入林届データを分析し、登山者の属性を考察した。結果を表2-3-4～表2-3-7に示す。

記帳した登山者の男女の比率はほぼ1：1であった。月別のパーティー数から見た入山比率は、一番多い月が紅葉シーズンの9月の44.7%であった。ついで開花時期の7月に27.7%が入山している。

集計によると、20代から30代の登山者は全体の1/4強であり、それに対して50代以上のいわゆる中高年層の記帳比率が57%に達している。なお、今回の集計結果は記帳者の年齢情報のみの統計であり、実際のパーティー全体の年齢構成と記載者の年齢の誤差分を考慮する必要がある。



(5) 利用状況に関するまとめ・考察

利用状況のまとめ及び考察を以下に示す。

1) まとめ

(1)～(4)の調査結果の概要を以下に整理する。

〈北海道全体・上川管内中部における観光入込客数〉

- 近年の観光入込客数は、北海道全体では減少傾向であったが、平成 22 年に増加に転じた。
- 上川管内中部の外国人宿泊者数は、平成 22 年に過去最高を記録した。
- 上川管内中部(上川・東川含む 8 市町村)では、東川町を除き減少傾向である。

〈観光客の傾向〉

- 「自然」は北海道観光の目的として重要度が高い要素である。
- フリープランのパッケージツアー及びパッケージツアーではない形態のツアーが増加している。

〈大雪山国立公園の利用者の傾向〉

- 大雪山国立公園の利用者数は、統計が開始された平成 10 年から平成 18 年までは横ばいだったが、平成 19 年以降急激に減少している。
- 層雲峡集団施設地区は平成 21 年に利用者が著しく減少しているが、その他の集団施設地区は横ばいである。

〈上川地区の傾向〉

- 近年の観光入込客数、宿泊客数はともに減少傾向である。
- 道外客が約 70%を占める。
- 冬期における外国人宿泊客の割合が高い。
- アジアからの来訪者が多い。
- 夏期(6～9月)に多くの観光客が訪れる。
- 宿泊・日帰りの割合は、宿泊客は約 35%、日帰り客は約 65%である。

〈東川地区の傾向〉

- 平成 21 年以降、観光入込客数は増加しており、平成 22 年は平成 18 年の統計開始以来最も多い。
- 道内客が約 80%を占める。
- 夏期(6～9月)に多くの観光客が訪れる。
- 日帰り客の割合が約 85%である。
- アジアからの来訪者が多い。

〈山岳地域の状況〉

- 2003 年の 6 月～10 月の表大雪地域における集計では、黒岳 7 合目～黒岳の利用が最も多く、次いで高原沼巡り、銀泉台～赤岳、姿見～旭岳であった。
- 表大雪地域における登山者は、総計 118,000 人と想定された。

2) 考察

〈上川地区〉

上川地区の観光入込客の特徴として、道外客が多い、パッケージツアーの宿泊地として利用されてきた等が挙げられる。近年、上川地区において観光入込客数が減少している要因としては、景気の低迷により旅行費用が高額となる道外からの観光客の減少、パッケージツアー客の減少、旭川紋別自動車道の開通により旭川から網走・知床方面へのルートから層雲峡が外れたことが考えられる。

一方、北海道全体では観光入込客数が平成 22 年度には増加しており、特に道内客の増加が顕著であることから、今後は、札幌や近隣市町からの観光客をターゲットとし、リピーターの確保につながる取組みが必要であると考えられる。人との交流や出会い、感動体験など、個人客やフリープランのツアー客などを対象とした取組み等を検討することが望ましい。

また、観光客が比較的少ない冬期間については、外国人客の入込が伸びていることから、外国人客に重点を置き、見るだけでなく滞在して冬の魅力を体験できるような取組みを検討することが望ましい。

〈東川地区〉

東川地区の観光入込客が近年増加している要因は、多様な取組みの効果が現れた結果であると考えられる。道内客が多いことから、今後もリピーターの増加が期待できる「人」との交流や出会いが生まれる取組みを強化することが望ましい。

一方、旭岳温泉や天人峡温泉の宿泊者数や大雪山国立公園の利用者は伸びていないことから、東川町全体の取組みとして展開すること、特別な体験ができる取組みを検討すること等が望ましい。

〈大雪山国立公園〉

利用者の北海道の観光目的として「自然」の重要度が高いにもかかわらず、大雪山国立公園の利用者数は減少しており、国立公園としての PR 不足が考えられる。今後は自然資源の活用を進めながら、利用者の誘致を図る必要がある。

近年増加傾向である外国人観光客においても、「自然観賞」は最も多い観光目的であることから、国立公園の重要な利用者層として今後対策が必要である。

利用ルートは姿見散策や黒岳 7 合目までの散策利用が多く、大雪山国立公園の奥深さを十分に体感できない人が多いため、エコツアーで多様なコースを提供することで、利用者の満足度を上げるとともに利用の分散を図ることが出来る。

2-4 ツアー等の実施状況

上川地区及び東川地区において実施されているツアー及び地域活性化に向けた取組みの実施状況を以下に示す。

(1) 上川地区

1) 既存ツアー実施状況

上川地区周辺の旅行業者・団体により企画・商品化（有料）されている、地域の自然資源を活用したツアーの事例を表 2-4-1 に示す。黒岳ロープウェイを運営する（株）りんゆう観光により、個人及び団体向けツアーのガイドの斡旋、ツアーの企画等が行われているほか、単発的に他団体によるツアーが企画されている。

ツアー内容としては、夏期は高山植物の花畑観賞を目的としたものが多く、冬期はスノーシューによる散策が多い。また、ツアー終了後に温泉での入浴が含まれているものが多い。

表 2-4-1 上川地区におけるツアー事例

No.	企画者	企画名	概要	料金	定員	備考
1	黒岳ロープウェイ (株)りんゆう観光	個人向けガイド・黒岳5合目～7合目	黒岳の静かな森と展望を満喫できるハイキング	¥10,000	12名	コース内容等は相談により調整可能
2		個人向けガイド・愛山溪沼の平	隠れた紅葉の名所の沼めぐりをする	¥25,000	12名	コース内容等は相談により調整可能
3		団体向けガイド・黒岳往復、銀泉台～コマクサ平往復、高原温泉緑沼	北海道最高峰の登頂を目指す	¥27,000	25名	添乗員がいることが前提 人数により価格変動あり
4		ワンポイントガイド	専任スタッフが黒岳5合目～7合目を案内する。毎日10:00より実施	大人¥4,000 子供 ¥2,000	-	前日までに要予約
5	りんゆうツアー (株)りんゆう観光	のんびりハイキングin大雪裾合平	裾合平のチングルマ、エソノツガザクラの群落を見るためのツアー コースにあまりアップダウンがなく歩きやすい	¥9,200	30名	札幌駅集合
6		大雪山・緑岳お花畑トレッキング	大雪山の開花時期に合わせて、緑岳のお花畑まで行く企画 下山後は高原温泉で入浴	¥8,200	20名	札幌駅集合
7		上川アンガス牧場スノーシューツアー	スノーシューでアンガス牧場周辺を散策し、温泉で入浴	¥8,200	20名	札幌駅集合
8	オフィスユ-	“目指せ山ガール”大雪山連峰に挑もうツアー	プロスノーボーダーの資格を持つガイドと黒岳石室を目指す 地元FM局の企画イベント	¥7,000	8名	地元FM局による企画イベント シーズン中、数回にわたり開催
9	NPO法人ねおす	愛山溪スノートレッキング	愛山溪を4kmにわたりスノーシューで歩く	¥6,500	-	旭川駅集合 スノーシューレンタル500円

2) 地域活性化に向けた取組み

上川地区の地域団体による、地域活性化に向けた取組み状況を表 2-4-2 に示す。取りまとめにあたっては、町内団体により試験的に実施された取組みを対象とした。

上川地区では、主に（社）層雲峡観光協会によりモニターツアー等が企画されている。現在は紅葉谷、銀泉台等の山麓エリアにおけるモニターツアーが多い。モニターツアーは、若年層を対象としており、参加した感想をブログで発信してもらうなど、新たな広報スタイルが試みられている。紅葉谷は、今年利用者が急増しており、モニターツアーの効果と推測されている。

今後は黒岳等の山岳エリアにも目を向けたモニターツアーが企画される予定である。層雲峡ビジターセンターでは、季節ごとに定期的に自然観察会が行われている。

表 2-4-2 上川地区における地域活性化に向けた取組み

No.	企画者	企画名	概要
1	(社)層雲峡観光協会	山さんぼ事業	層雲峡観光協会が推進している、層雲峡周辺の自然資源を活用した地域活性化を図るための事業。H22年にモニターツアーを実施。若年層モニター(山ガール、山ボーイ)を、自然体験ツアー(紅葉谷)に無料招待。参加者が感想をtwitterやブログで発信。モニターツアーの検証は行われていないが、H23年に紅葉谷を訪れたツアーバス数から、利用者は数千人と推測。(※詳細人数は不明)H24年にはガイド付きのツアーとして商品化予定。 山さんぼ事業で紅葉谷の整備を進める計画あり。 今後は黒岳等の山岳エリアのツアーを企画する予定。現在ツアー企画を構想中。
2		大雪星めぐり	層雲峡観光協会が主催。H21年にモニターツアー実施。新月の頃に開催する星観察ツアー。黒岳5合目、旭ヶ丘、大雪湖で計4回開催している。H22年にはガイド付き星観察ツアーを有料で実施(¥2,000)。広報は各宿泊施設。
3		雲海ブレイクファストツアー	層雲峡観光協会が主催。H22年にモニターツアー実施。層雲峡温泉を早朝出発し、銀泉台(赤岳登山口付近)から雲海を眺めながら朝ごはんを食べるツアー。モニターツアーは観光協会がバスを手配。商品化に向けて交通手段の確保が課題。
4	・上川町公民館 ・上川自然保護官事務所	上川町民向け自然観察行事	上川町民を対象に、毎年4回程度開催する自然観察行事。参加費無料。講師は上川山岳会長等が務める。平成23年度の実績は、赤岳や三段山等。
5	層雲峡ビジターセンター	季節の自然散策	層雲峡周辺で行うミニ観察会。山麓の身近な自然を案内する。9~10月の毎週日曜開催。ビジターセンター前集合。
6		定点観測 紅葉谷	雪解けや花の開花時期・分布を、継続的に調査形式で観察する。6月~7月の午前中開催。定員5名。ビジターセンター集合。



写真 2-4-1 紅葉谷における
スノーシュートレッキングの様子(1)



写真 2-4-2 紅葉谷における
スノーシュートレッキングの様子(2)



写真 2-4-3 紅葉谷の柱状節理(冬期)



写真 2-4-4 紅葉滝 (冬期)

(2) 東川地区

1) 既存ツアー実施状況

東川地区周辺の旅行業者・団体により企画・商品化（有料）されている、地域の自然資源を活用したツアーの事例を表2-4-3に示す。

自然の中の散策と、食事やクラフト体験等を組み合わせたツアーが、NPO法人ねおすによって多く商品化されている。なお、東川地区では現在7社の地元ガイド事業者が活動しており、表に記載のツアー以外にも、各自により個人及び団体向けのガイドツアーが行われている。

表2-4-3 東川地区におけるツアー事例

No.	企画者	企画名	概要	料金	定員	備考
1	旭川ふるさと観光(株)	かみかわ冬の食と体験観光	スノーシュー+東川町でランチ+旭川温泉or天人峡温泉で温泉のセットツアー	¥7,500	20名	-
2		旭岳姿見の池トレッキングコース	ロープウェイで海拔1600mの姿見駅へ行き、姿見の池までの1周コースを歩く	¥3,750 ~7,500 (人数により変動)	-	旭岳集合。個人向けガイドツアー
3	HAL outdoor tours	愛犬とスノーシュー体験	旭岳、天人峡周辺の森林をスノーシューで歩く。ペット(犬)参加可能	¥3,000 ~4,500 ※ペットは¥500	-	道草館集合
4	大雪山宝島旅行社(株)	大雪山縦走キャンプ(旭岳~黒岳)	小学生高学年を対象とした3泊4日の登山・キャンプ体験ツアー。	¥37,000	8名	キトウシ森林公園(東川町)集合
5	NPO法人ねおす	ウッドクラフトと東川ランチ&スノーシュー	キトウシ森林公園でトレッキング+東川町内で米バーガー食事+ウッドクラフトで箸づくり体験	¥3,500	-	旭川駅集合 歩行時間：2時間 歩行距離：1~2km
6		天然トドマツエッセンスづくりとダッチオープン&スノーシュー	ライトなスノーシュートレッキングとトドマツの枝打ち体験。お昼は薪割りを行って、たき火にあたりながらダッチオープン料理を作る。	¥3,500	-	旭川駅集合 歩行時間：2時間 歩行距離：1~2km
7		カモ沼チャレンジキャンプ	カモ沼の周辺散策+雪遊び+キャンプのセットツアー。小学生が対象。	¥11,000	-	キトウシ森林公園(東川町)集合
8		春のお花見・カタクリ&ランチ~東川町キトウシ山~	東川町内を散策し、カタクリの花を眺めながらランチをする。	¥3,500	-	歩行時間：2時間 歩行距離：1~2km
9		巨木の写真を撮りにいこう~天人峡くまの沢~	巨木が多い天人峡周辺エリアで、巨木の撮影を行う	¥4,500	-	旭川駅集合 歩行時間：3時間 歩行距離：1~2km



写真 2-4-5 旭岳噴気口(冬期)



写真 2-4-6 旭岳スノーシュー
トレッキングの実施状況(1)



写真 2-4-7 旭岳スノーシュー
トレッキングの実施状況(2)

2) 地域活性化に向けた取組み

東川地区における取組みを表2-4-4に示す。取りまとめにあたっては、町内事業者・団体により試験的に実施された取組みを対象とした。実施状況調査の一部はヒアリングにより行ったことから、ツアーの課題・改善点等を併せて記載する。

東川地区では、主に東川町及び観光協会により様々な取組みが実施されている。エコツアーのモニターツアーでは、登山道整備について知るツアー、スマートフォンを用いた若年層向けの企画や巨木観賞ツアー等、多様なツアーが企画されている。

表 2-4-4 東川地区における地域活性化に向けた取組み

No.	企画者	企画名	概要	参加者意見・感想
1	東川町 観光地活性化・ 雇用創造協議会 ※主催アグリテック	山ガールのための夏山トレッキング (共同企画)	初心者向けコースから本格的な縦走登山まで、参加者のレベルに合わせて参加可能	-
2		大雪山をゆっくり回り、自然について考える ツアー (花の大雪山を歩きながら、登山道整備について知ろう！)	大雪山の開花時期に合わせて登山し、登山道整備について学ぶ	-
3		ミスナラの長者に逢いに行こう！	「長者」と呼ばれるミスナラの巨木を観賞するツアー やぶこぎが体験出来る	参加者感想： ・やぶこぎが初めてだったので楽しかったです。 ・年配の方ばかりかと思いましたが、女性の方までいて楽しく過ごせました。
4	環境省	エコツーリズム検証ツアー	ツリークライミング、外来魚駆除及び吹雪体験等を実施する	-
5	東川町産業振興課	H23年度大雪山自然観察講座 「夏の天女ヶ原を歩こう」	天女ヶ原周辺を散策する	-
6	ひがしかわ観光協会	環境シンポジウム	「『夢と冒険』生きる力を育む野遊びのすすめ」をテーマとし、辰野 勇氏、野田知祐氏、夢枕 眞氏、藤門弘氏によるパネルディスカッションが開催される	-
7		女性のためのmont-bell&スマホでいく旭岳	iPhone/iPad用アプリのモニターとして、北海道最高峰「旭岳」を登山し、利用者に自身のブログやSNSを通して旭岳の魅力を発信してもらう	-
8	東川町産業振興課 環境省	秋の大雪を歩こう	紅葉時期の大雪山の自然講習会。 講師は山楽舎BEARに委託	-
9	NPO法人ねおす	旭岳 冬山の安全セミナー	雪崩をはじめとした冬山での安全対策についての勉強を行う	-
10		ネイチャーガイドと歩く 姿見の池ハイキング	旭岳温泉宿泊者向けとして、当日受付を可能としたプログラム 有料¥4,500	参加者感想： ・事前に企画されていると旅行プランを立てやすかった 配慮・課題・改善点等： ・登山道を修復している様子や外来植物について話すことで、環境保全について理解を深める機会を提供するように心がけている ・当日受付のガイドプログラムを継続するために、地域のガイドと連携するための仕組みを作る
11	山楽舎BEAR	低山クラブ 黄金山・坊主山・ 南ベトトル山	のんびり低山歩き+温泉でさっぱり+おいしいお食事のセットツアー 有料¥7,500~9,000	参加者感想： ・地元の食事や温泉が楽しめる 配慮・課題・改善点等： ・地元で根ざした小さなレストランを選ぶ
12		連続講座大雪山の歩き方 「登山と環境保全」	登山道荒廃の現場を歩いて意見交換を行い、環境保全に対する意識を高める 有料¥5000	参加者感想： ・自分ができることがあればボランティアで参加したい 配慮・課題・改善点等： ・知るだけでなく行動に移せるようなツアー・イベントへと繋げる



写真 2-4-8 「ミズナラの長老に逢いに行こう！」
ガイドの解説を聞く参加者



写真 2-4-9 「ミズナラの長老に逢いに行こう！」
ヤブを刈りながら進む参加者

(3) ガイド実態及び利用者の動向

東川地区において実施されているエコツアーの現状把握調査を目的とし、東川地区で活動しているガイド事業者を対象としてアンケート調査を実施した。調査概要及び調査結果を以下に示す。

1) 調査概要

アンケート調査概要を以下に示す・

- 調査実施期間：平成 24 年 2 月 10 日送付 2 月 16 日〆切
- 調査方法：紙媒体及びアンケート内容の記録されたCD-Rを郵送により送付した。送付後は対象者に電話連絡を行い、アンケート協力を依頼した。回収方法は郵送による返送とした。
- 調査対象：東川町で 2 年以上ガイドとして活動している 4 事業者
- 調査項目：次項にアンケート内容を示す。なお、調査時の送付物一式は資料編に添付する。

大雪山国立公園地域におけるエコツア一等実施状況の調査について
ガイド事業者のみさまへ

貴事業所で実施されているツアープログラムの概要について、以下の質問にご回答下さい。
(※パーセント (%) 等の比率を言う説明については、主観による概数で構いません。)

質問1

事業所の概要について、以下の項目についてご回答下さい。

事業所名	
所在地	
従業員数	ガイド () 人 ・ 事務 () 人
ホームページの有無	
年間ツアー実施数等	平成 21 年 () 回 参加者数 () 人 平成 22 年 () 回 参加者数 () 人 平成 23 年 () 回 参加者数 () 人 ※道内外の旅行業者などからのガイド派遣は回数に含めません ※ツアー実施の一覽表等の資料があれば着支えない範囲でご提供ください

質問2

ツアー利用者の動向について、以下の質問にご回答下さい。

質問	回答欄
ツアー客の所在地の割合について	東川町：() % ・ 近隣市町：() % ・ 札幌：() % その他：() %、主な地域：() % 道外：() %、主な地域：() % 外国：() %、主な地域：() %
参加者の年齢層	～20代：() % ・ 30～40代：() % ・ 50～60代：() % 70代～：() %
参加者の構成	自社で企画募集したツアー () % 個人申し込み () % 行政や教育機関、道内外の旅行業者などからのガイド派遣要請 () % その他 () () () %
観光客以外の有無	・有：() % ・無：() %
参加者の多いツアーについて	春 山 ・ 自然観察 ・ スノーシュートレッキング ・ 希少な体験 (絶境7ヶ等) ・ 歴史文化 ・ 環境保全活動 (実施状況を知る等) その他 () () () %
ツアー参加者の反応や感想について、ご記入下さい。	

ツアーのリピーターの動向について、以下の質問にご回答下さい。

リピーターの多いツアーについて (複数回答可)	登山 ・ 自然観察 ・ スノーシュートレッキング ・ 希少な体験 (絶境7ヶ等) ・ 歴史文化 ・ 環境保全活動 (実施状況を知る等) その他 () () () %
リピーターの比率	・ 0割 ・ 1～2割 ・ 3～4割 ・ 5～6割 ・ 7割以上
リピーターの所在地の割合について	東川町：() % ・ 近隣市町：() % ・ 札幌市：() % その他道内：() %、主な地域：() % 道外：() %、主な地域：() % 外国：() %、主な地域：() %
リピーターの年齢層	～20代：() % ・ 30～40代：() % ・ 50～60代：() % 70代～：() %
リピーターの構成	自社で企画募集したツアー () % 個人申し込み () % 行政や教育機関、道内外の旅行業者などからのガイド派遣要請 () % その他 () () () %
リピーターの居住地の有無	・有：() % ・無：() %

質問3

実施しているツアー全般について、以下の項目についてご回答下さい。

質問	回答欄
広報手段	チラシ ・ ポスター ・ 新聞広告 ・ ホームページ (日本語・外国語) 宿泊施設で募集 ・ 旅行会社 ・ その他 () () () %
広場地域	東川町 ・ 近隣市町 ・ 札幌市 ・ その他道内 () () () % 道外 () () () % その他 () () () %
安全対策の内容	・ 急降への加人 ・ 出発前にオリエンテーションで注意事項を説明 ・ その他 () () () %
トイレの対策	・ 携帯トイレが事前に必要であることを事前に伝えている ・ 必要に応じてトイレを配置している ・ 予備の携帯・トイレを持参している ・ 近くにトイレがある場所で開催している ・ トイレに関する案内はしていない ・ その他 () () () %

質問4

現在の大雪山国立公園の登山道や植生の荒廃状況を問題だとお考えですか。

はい ・ いいえ

上記の質問で「はい」と回答された方にお尋ねします。

登山道や植生等、大雪山国立公園の環境を保全していくために、ガイド事業を実施する中で取組めることがあればご記入ください。

質問6

貴事業所では今後、どのようなエコツアー（環境保全、観光振興、地域振興の観点を含むツアー）を実施したいとお考えですか？

質問7

エコツアーを実施するうえで行政に望む支援等があればご記入下さい。

質問5

ガイド事業を行う中で、地元で生産された食材や加工品を使うなど、地域振興につながる取り組みをされていますか。

はい ・ いいえ

また、ガイド事業において、どのような地元の産物との連携ができるとお考えですか？また、その場合の課題等についてもご回答下さい。

質問8

これまで（過去3年間）に実施されたエコツアープログラム（環境保全、観光振興、地域振興の観点を含むツアー）の概要について、別紙の項目についてご回答下さい。なお、プログラムが複数の場合は、それぞれについてご記入をお願い致します。

No.

質問	回答欄
ツアー(企画)名	
ツアーの概要	
実施日、所要時間	年 月 日 (日回、 時間)
ルート・場所	
参加費・参加者数	()円 ()人
地産産品の利用	有() 無()
利用者の感想	
自然環境への配慮 や、ツアー企画内容 で特に心がけた点	
ツアーの課題・改善 点など	

No.

質問	回答欄
ツアー(企画)名	
ツアーの概要	
実施日、所要時間	年 月 日 (日回、 時間)
ルート・場所	
参加費・参加者数	()円 ()人
地産産品の利用	有() 無()
利用者の感想	
自然環境への配慮 や、ツアー企画内容 で特に心がけた点	
ツアーの課題・改善 点など	

2) 調査結果

アンケート調査の結果を表 2-4-5(1)～(3)に示す。

ツアーの実施回数は、各社とも年度により増減があり、傾向は特に認められない。ツアー客の所在地では、道外客が 60～70%を占める事業者が 2 社、札幌 80%の事業者 1 社、近隣市町 80%が 1 社、わずかではあるが中国や香港からの利用者もいた。道外からのツアー客は、関東からの来訪が最も多かった。

ツアー参加者の年齢層は 50～60 代が多く、事業者は客層の高齢化が進んでいるという意見があった。一方、30～40 代が 35%の事業者があり、この事業者は、利用客によって体験したいことが違うのでどのプログラムも参加者が多いと回答している。補足で実施したヒアリングによると、30～40 代の女性を対象とした小物づくりと自然観察をセットにした企画や若い女性対象の初級者向けの登山ツアーなどへの参加が多いとの回答であった。

参加者の多いツアーは、登山、自然観賞、スノーシュートレッキングであり、リピーターが多いツアーの傾向も概ね同様であった。また、利用者は、ガイドに好感を持ってリピートしてくれているという回答もあった。いずれの事業者もリピーター率が 60%以上であるが、道外からのツアーのガイドを多く請け負っている事業者は、リピーターが比較的少ないようであった。リピーターの年齢層は、50～60 代が 70～80%と最も高く、30～40 代は、どの事業者も 10%であった。リピーターは、経済的、時間的に余裕がある方が多いと考えられる。

広報方法としては、チラシとホームページが多く、旅行会社や新聞広告との回答もあった。広報している地域は、札幌、近隣市町、東川町内が多く、道外へ広報しているのは旅行会社からのツアーを請け負っている事業者 1 社のみであった。また、補足で実施したヒアリングによると、ホームページは新規顧客の開発にはあまり役立たないとの意見があった。

トイレの対策については、全事業者が、予備の携帯トイレを持参しているとの回答であった。

エコツアーに関する設問についての回答の要旨は、以下のとおりであった。

○今後どのようなエコツアーを実施したいか

- 現状を知ってもらう見学ツアー
- 作業体験（管理や施行）が出来るもの
- 保全につながる活動
- 地元の人が多く登場するエコツアーの展開
- 東川のエコツアーを道外、海外に展開する仕組みづくりの展開
- 登山道崩壊について学ぶツアー
- 登山道崩壊を調査・測量する勉強会

○エコツアーを実施するうえで行政に望む支援

- 山岳地域におけるトイレの設置
- 散策道の使い分け（バリアフリー、特別地域など）
- 関係者が共有出来る中長期ビジョンの作成
- 広報誌への掲載（一般に営利ツアーは載せてもらえない）
- 看板等の英語表記
- 山岳エリアのリアルタイムの情報を得られる場

○環境保全のためにガイド事業で取組めること

- 口頭で状況を説明し、問題を提示する
- ゴミの持ち帰り等のマナーの徹底
- （保全活動の）実施時期や地域を伝える
- 既存の自然保護対策事業とガイド事業を連携させ、良い人材が長く働ける仕組み作りを行う
- 専門的な知識を学び、それを平易な言葉になおし興味を引くような情報に翻訳して伝えるようなツアー及び勉強会を行うこと専門家、研究者と一般登山者の仲立ちをすること

○ガイド事業で地元産業と連携出来ること

- 持続的に利益が出るような負担にならない仕組みが必要
- イベントではなく、何か体験出来るとよい
- 東川町民自らが東川町の豊かな自然を伝えることが出来るインタープリターになることが重要。豊かな自然を愛する町民が増えることで、町外のお客様を心地よく迎える気持ちが生まれ、ガイド業とも連携出来る自然と町民をつなぐ人・仕組みが必要

3) 考察

アンケート結果より、ツアー利用者数は50～60代の比較的裕福な世代が多く、リピーターとなっているが、30～40代でも関心があるプログラムであれば、ツアーに参加しており、今後利用する可能性が高いことがわかった。

大雪山国立公園というフィールドを利用してエコツーリズムを展開することによって、自然観賞だけでなく、地域の歴史や文化、環境保全活動、普段体験できないことが出来るツアーなどの可能性があり、これまでとは異なる世代の参加やリピーターが現れることが期待される。

表 2-4-5 アンケート回答(質問 1~2) (1)

質問		A社	B社	C社	D社
従業員数(ガイド・事務)		・ガイド1名 ・事務0名	・ガイド1名 ・事務0名	・ガイド3名 ・事務1名	・ガイド2名 ・事務0名
ホームページの有無		無	無	有	有
年間ツアー 実施数	H21年(回)	37	10	31	110
	参加者(人)	360	70	395	440
	H22年(回)	18	16	43	87
	参加者(人)	230	114	200	348
	H23年(回)	2	14	38	129
	参加者(人)	20	98	181	516
ツアー客の 所在地	東川町	10%	10%	0%	5%
	近隣市町	20%	10%	5%	80%
	札幌	0%	10%	80%	5%
	その他	0%	0%	0%	0%
	道外	70%	60%	15%	10%
	主な地域	関東	東京	東京	関東圏・関西圏
	外国	0%	5%	0%	0%
	主な地域		香港・中国		
参加者の 年齢層	~20代	10%	0%	5%	0%
	30~40代	15%	10%	35%	10%
	50~60代	70%	70%	60%	80%
	70代~	5%	20%	0%	10%
参加者の 構成	自社企画	80%	20%	40%	80%
	個人申込み	5%	50%	10%	15%
	ガイド派遣要請	15%	30%	20%	5%
	その他	0%	0%	30%	0
			文化センターとの共同企画		
現地宿泊 の有無	宿泊有り	80%	10%	40%	15%
	宿泊無し	20%	90%	60%	85%
参加者の多いツアー		・登山 ・自然観賞 ・スノーシュー トレッキング	・登山 ・自然観賞 ・スノーシュー トレッキング	・その他 (対象者によって体 験したいことが違う ので、どれも当ては まる)	・登山 ・スノーシュー トレッキング
ツアー参加者の 反応や感想		登山者の高齢化が 進んでいる(平均年 齢65歳位)	・のんびりと植物を 観察される方が多 い ・自然状況によっ て、ツアー内容を変 更される事に理解 が高い	近隣で参加する人 は、価格設定が安 いと参加する傾向に ある	回答なし

表 2-4-5 アンケート回答(質問 2~3) (2)

質問		A社	B社	C社	D社
リピーターの多いツアー		・登山 ・自然観賞 ・スノーシュー トレッキング	・登山 ・自然観賞	・その他(場所では なく、ガイドに好感を 持ちリピートしてくれ ていると思う)	・登山 ・スノーシュー トレッキング
リピーターの比率		1~2割	5~6割	3~4割	7割以上
リピーターの 所在地	東川町	20%	10%	0%	5%
	近隣市町	20%	0%	0%	80%
	札幌市	0%	20%	20%	5%
	その他	0%	0%	0%	0%
	道外	60%	70%	80%	10%
	主な地域	関東	回答なし	東京	関東圏・関西圏
	外国	0%	0%	0%	0%
	主な地域				
リピーターの 年齢層	~20代	0%	0%	0%	0%
	30~40代	10%	10%	10%	10%
	50~60代	80%	70%	90%	80%
	70代~	10%	20%	0%	10%
リピーターの 構成	自社企画	80%	20%	10%	90%
	個人申込み	10%	75%	80%	10%
	ガイド派遣要請	10%	5%	10%	0%
	その他	0%	0%	0%	0%
リピーターの 現地宿泊の 有無	宿泊有り	70%	50%	90%	15%
	宿泊無し	30%	50%	10%	85%
広報手段		・チラシ ・旅行会社	・NPOねおす及び町 のホームページ	・チラシ ・ホームページ (日本語) ・フリーペーパー、 ML、旅行サイトなど	・新聞広告 ・ホームページ
広報地域		・東川町 ・近隣市町 ・札幌市 ・道外(関東)	・東川町 ・札幌市	・東川町 ・近隣市町 ・札幌市 ・その他道内	・近隣市町
安全対策の内容		保険への加入	・保険への加入 ・出発前にオリエン テーションで注意事 項を説明	・保険への加入 ・出発前にオリエン テーションで注意事 項を説明	・保険への加入 ・出発前にオリエン テーションで注意事 項を説明
トイレの対策		・予備のトイレを持 参している ・トイレを済ませてか ら出発するように説 明する	・携帯トイレが必要 であることを事前に 伝えている ・必要に応じて toilet を配布している ・予備の携帯 toilet を持参している	・携帯トイレが必要 であることを事前に 伝えている ・必要に応じて toilet を配布している ・予備の携帯 toilet を持参している ・近くに toilet がある 場所で実施している	・携帯 toilet が必要 であることを事前に 伝えている ・予備の携帯 toilet を持参している

表 2-4-5 アンケート回答（質問 4～8）（3）

質問	A社	B社	C社	D社
登山道や植生の荒廃状況を問題と考えているか？	いいえ	はい	はい	はい
環境保全のためにガイド事業の実施の中で取り組めることはあるか？		<ul style="list-style-type: none"> ・口頭にて状況を説明し、問題を提示する ・ゴミの持ち帰り等のマナーの徹底 ・実施時期や地域を伝える 	姿見の池園地周辺についてお答えします <ul style="list-style-type: none"> ・ガイド事業のみでは、収入が安定しないため環境保全に関する仕事を続けたくても辞めざるをえない人材がいます ・既存の事業（東川町大雪山国立公園保護協会：自然保護対策事業など）とガイド事業を連携させ、良い人材が長く働ける仕組みづくりを行いたいです 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識を学び、それを平易な言葉になおし興味を引くような情報に翻訳して、伝えるようなツアー及び勉強会を行うこと ・つまり、専門家・研究者と一般登山者の間の仲立ちをすること
ガイド事業において地元産食材等の使用などの地域振興に繋がる取り組みをしているか？	いいえ	はい	はい	はい
ガイド事業において、地元産業とそのような連携が可能か？またその場合は課題について		<ul style="list-style-type: none"> ・持続的に利益が出るような負担にならない仕組みが必要 ・イベントではなく、何か体験できるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の産業と連携するツアーをいつも心がけています ・ガイド業を行っている者だけではなく、町民自らが東川町の豊かな自然を伝えることができるインタープリターになることが重要だと考えます 豊かな自然を愛する町民が増えることで、おのずと町外のお客様を心地よく迎える気持ちが生まれ、ガイド業とも連携することができると思います そのために、自然と町民をつなぐ人・仕組みが必要です 	<ul style="list-style-type: none"> ・ツアーの行き帰りに道の駅などに立ち寄り、お客様に地元産品を紹介し、ご購入いただくこと ・登山ツアーの場合、朝早く夜遅くなることが多いので、行きも帰りも道の駅などが閉まっていることが多い
今後、どのようなエコツアーを実施したいと考えているか	<ul style="list-style-type: none"> ・特にエコツアーうたう事は考えていませんが、地元にお金が少しでも落ちるようには考えています 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状を知ってもらおう見学ツアー ・作業体験（管理や施行）ができるもの ・何か保全活動に繋がる活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の人々が多数登場する、エコツアーの展開 ・東川のエコツアーを道外、海外に販売する仕組みづくりの展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・登山道崩壊について学ぶツアー ・登山道崩壊を調査・測量する勉強会
エコツアー実施のうえで行政に望む支援等		<ul style="list-style-type: none"> ・山岳地域におけるトイレの設置 ・英語の看板の設置（山名・登山口など） ・散策道の使い分け（バリアフリー、特別地域など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者が共有できる中長期ビジョンの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌への掲載（一般に営利ツアーには載せてもらえませんので）
これまでの実施したエコツアープログラムの概要について	特にエコツアーは行っていない	エコツアーと銘うてるものは特にない	別紙参照 ※資料編に添付	別紙参照 ※資料編に添付

(4) 他地区における事例収集

上川地区及び東川地区においてエコツーリズムを推進するにあたっての参考とすることを目的とし、エコツーリズム先進箇所にヒアリングを行った。

1) 特定非営利活動法人 信越トレイルクラブ

ヒアリングは、特定非営利活動法人信越トレイルクラブ(以下、信越トレイルクラブ) に対して実施した。

信越トレイルクラブは、長野県と新潟県の県境に位置する関田山脈に「長距離自然歩道＝信越トレイル」を設置する計画を具体化するための推進組織として、平成 15 年秋に設立された。平成 20 年 9 月には総延長 80km 全線が開通したが、開通後も活動は継続されている。

信越トレイルクラブでは、大規模開発型のトレイル整備ではなく、かつてあった旧道・古道や国有林の管理道をほとんど人の手で復元している。活動内容としては、トレイルの維持管理作業のほか、自然環境調査、入山者調査、環境教育活動等を行っている。クラブ参加者は 2 県 9 市町村の地域住民が中心であり、NPO 団体、企業、行政機関と連携しながら活動を行っている。

また、信越トレイルクラブは長野県なべくら高原の「森の家」という体験型宿泊施設に事務所を構えている。訪れる人が自然体験や農村体験を楽しみながら、活動についても触れることが出来る仕組みとなっている。

本ヒアリングは、信越トレイルクラブにおける山岳地域での協働のあり方、エコツーリズムの進め方、拠点施設を設置する上での考え方を、大雪山でエコツーリズムを推進する上での参考にすべく実施したものである。

2) ヒアリング概要

ヒアリング実施概要を以下に示す。

- 実施日：平成 23 年 12 月 16 日
- 実施場所：信越トレイルクラブ事務局 森の家
- ヒアリング出席者：信越トレイルクラブ 木村氏、高野氏
(株)ニュージェック 川端、檜山



写真 2-4-10 森の家内の様子

●ヒアリング内容：

○エコツアーについて

- 利用者の質を変えることが重要。知床では一般の観光客をエコツアーの客へと変えていった。受け入れ側の意識改革も必要。
- エコツアーを進めるにあたってはガイド組織の一元化が重要。その際は、地域外のガイドとの関わり方についても考える必要がある。
- 何度も来たいと思わせるような、伝道師的な役割を担う人材が必要。
- コースを設定し、目標を作ると良い。
- ビジターセンターを拠点とし、利用者がエコツアーを利用しやすくなる工夫が必要（セクションハイクなど）。
- 信越トレイルクラブではガイドの振り方は、ガイドの空状況を確認し、客層や場所などを考慮して、ガイドを選定する。

○ボランティアの集め方

- 郷土愛を育て、ボランティア活動をしたくなるよう仕向けることが必要。
- 活動が楽しいことが大切であり、ライフワーク化する。続けるためには、成果が見えることが必要であり、受け入れ側の演出も必要となる。マスコミなどを活用した、社会的認知をあげることも重要。
- 目新しいものを提供し、ボランティアを飽きさせないよう仕掛けていく必要がある。
- 信越トレイルクラブの場合、8年・延べ2,000人のボランティアで開設。開設中はボランティアの意識が高かったが、完成後少し下がりはじめている。

○支援施設の考え方

- 人が集まって楽しめる施設を考えることが重要である。展示が多いと利用者は何回も訪れない。
- 地元の子供が学べる場、関心を示す場にすることが大切。
- 環境省のこれまでのビジターセンターの運営方法を見直す必要があるのでは。責任を持って運営していける団体に任ずるのがよい。
- ビジターセンターはレンジャーの交代により、クオリティが一定に保たれないことが問題。
- 旭岳ロープウェイ付近は食事をする場所がない。ビジターセンターに食事が出来る機能を盛り込むもよい。その場合、コンセプトを持ったしっかりとしたものとする必要がある。
- 大雪の場合、周囲に何もないので、逆に大胆なことが出来るのではないか。
- 支援施設が目的地となるようにする。温泉街に滞在中にゆっくり出来るような施設にするのもよい、そのためには宿泊施設等との連携も必要。支援施設の構想の段階で参加してもらうことが必要。
- 地元で事務局業務をしっかりと出来る人が必要。
- 人が集まることが大事。その次に生まれるモノを見越した評価とビジョンが必要。

2-5 利用施設等の状況

各施設の利用実態及び施設整備状況（老朽化の現況、管理状況、必要性、機能性等）並びに自然環境資源の把握を行うことを目的とし、現地確認による概況調査を実施した。

(1) 調査概要

1) 調査対象箇所

調査対象箇所を表 2-5-1 に示す。

表 2-5-1 調査対象箇所

区分	公園計画	
集団施設地区	層雲峡	園地
		博物展示施設
		野営場
		駐車場
	勇駒別	園地
		駐車場
道路(歩道)	層雲峡勇駒別線	道路(歩道)
	紅葉谷線	道路(歩道)
	沼ノ平姿見の池線	道路(歩道)
	中岳・裾合平線	道路(歩道)
	銀泉台白雲岳線	道路(歩道)
	高原温泉高根ヶ原線	道路(歩道)
	天人峡勇駒別線	道路(歩道)
	羽衣敷島の滝線	道路(歩道)

2) 調査日時

調査実施日及び調査箇所を表 2-5-2 に示す。

表 2-5-2 調査実施日

No.	調査日	調査箇所または調査ルート
1	平成 23 年 9 月 18 日	銀泉台～赤岳～白雲岳
2	平成 23 年 9 月 19 日	黒岳～中岳～北海岳～黒岳
3	平成 23 年 9 月 20 日	姿見の池～旭岳～中岳分岐～裾合平～姿見の池
4	平成 23 年 9 月 27 日	高原温泉沼めぐりルート
5	平成 23 年 10 月 14 日	勇駒別集団施設地区～天人峡勇駒別線～天人峡
6	平成 23 年 10 月 15 日	勇駒別集団施設地区、天人峡
7	平成 23 年 10 月 16 日	層雲峡集団施設地区
8	平成 23 年 11 月 9 日	層雲峡集団施設地区

(2) 集団施設地区の状況

1) 層雲峡集団施設地区

層雲峡集団施設地区の状況を表 2-5-3 に整理する。なお、各施設の詳細を整理した個票は資料編に添付する。

各事業の現況は、老朽化、管理状況の観点からの評価を「○」、「△」、「×」で整理している。それぞれの凡例を以下に示す。

●現況評価凡例

○＝対策が必要な問題点は見当たらない。

△＝現況について問題点がある。緊急性は高くないが将来的には対策が必要。

×＝現況について問題点があり、対策の緊急性が高い

表 2-5-3 層雲峡集団施設地区における各事業の概要

事業の種類	事業名 (既事業執行者)	整備内容	現況		必要性・機能性等の 観点から考えられる課題
			老朽 化	管理 状況	
園地	層雲峡園地 (環境省)	案内板、デッキ、木製遊歩道、ベンチ、自然観察棟、遊具等	△	○	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察舎前ウッドデッキ修繕 ・層雲峡中心部における誘導標の整備、マップの作成等の情報発信 ・フィールドアスレチック等の整備
博物展示施設	層雲峡ビジターセンター (環境省)	展示室、レクチャールーム、読書スペース、映像観賞スペース	○	○	-
野営場	層雲峡野営場 (北海道)	炊事場、トイレ、キャンプファイヤー施設、管理棟、テントサイト、駐車場等	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・施設についての情報発信 ・利用者が少ない時期の活用方法の検討
駐車場	層雲峡駐車場 (環境省)	立体駐車場、大型車優先駐車場、プロムナード広場前駐車場	○	○	-

2) 勇駒別集团施設地区

勇駒別集团施設地区の状況を表 2-5-4 に整理する。なお、各施設の詳細を整理した個票は資料編に添付する。

各事業の現況についての現状評価は 1) と同様に整理した。凡例を以下に示す。

勇駒別博物展示施設（旭岳ビジターセンター）は、展示内容の老朽化、立地条件等により十分に活用されておらず、施設の再整備や新設を視野に入れた新たな活用方法の検討が必要である。

● 現況評価凡例

○＝対策が必要な問題点は見当たらない。

△＝現況について問題点がある。緊急性は高くないが将来的には対策が必要。

×＝現況について問題点があり、対策の緊急性が高い。

表 2-5-4 勇駒別集团施設地区における各事業の概要

事業の種類	事業名 (既事業執行者)	整備内容	現況		必要性・機能性等の 観点から考えられる課題
			老朽化	管理状況	
園地	勇駒別園地 (環境省、北海道)	方向指示板、自然解説板、木製橋、木道、 野外卓、ベンチ、四阿等	△	△	・看板等の更新 ・老朽化施設の補修
博物展示施設	勇駒別博物展示施設 (北海道、東川町)	展示室、レクチャールーム、 係員事務室	△	○	・展示施設を含めた施設の更新
駐車場	旭岳公共駐車場 (北海道)	駐車場、トイレ	○	△	・トイレの修繕



写真 2-5-1 勇駒別園地 老朽化した看板類



写真 2-5-2 旭岳ビジターセンター展示室

(3) 歩道の状況

歩道の現況を表 2-5-5 に示す。なお、各施設の詳細を整理した個票は資料編に添付する。

各事業の現況についての現状評価は(2)と同様に整理した。対策の緊急性の高さは、現地の登山道の荒廃状況等を踏まえ判断した。凡例を以下に示す。

●現状評価凡例

○＝対策が必要な問題点は見当たらない

△＝現況について問題点がある。緊急性は高くはないが将来的には対策が必要

×＝現況について問題点があり、対策の緊急性が高い。

表 2-5-5 道路(歩道)における各事業の概要

事業名 (既事業執行者)	整備内容	現況		必要性・機能性等の 観点から考えられる課題
		老朽 化	管理 状況	
層雲峡勇駒別線道路(歩道) (環境省、北海道)	バイオトイレ、野営場指定地、ベンチ、道標、看板類	△	×	<ul style="list-style-type: none"> ベンチ・標識類の再整備 裏旭野営指定地における携帯トイレブース整備 荒廃した登山道の補修 旭岳温泉と層雲峡の交通手段の確保 バイオトイレの許容量超過等
沼ノ平姿見の池道路(歩道) (北海道)	展望台、道標、案内板、ロープ柵等	△	△	<ul style="list-style-type: none"> 荒廃した登山道の補修 既存石組の点検 外来種対策 等
中岳裾合平線道路(歩道) (北海道)	木道デッキ、道標、保護ロープ	×	×	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化した木道の改修 登山道の対策 中岳温泉におけるスコップでの掘削行為の取扱い整理等
高原温泉高根ヶ原線道路(歩道) (北海道)	道標、案内板、木道、グレーチング、石組	△	△	<ul style="list-style-type: none"> 荒廃した登山道の補修 老朽化した看板類の再整備 ヒグマ監視体制の整備 等
銀泉台白雲岳線道路(歩道) (北海道)	道標、看板類、ロープ、簡易な木道、枕木、石組 等	×	×	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化看板の撤去・再整備 荒廃した登山道の補修
天人峡勇駒別線 (北海道)	標柱、看板	×	△	<ul style="list-style-type: none"> 登山道入り口の明瞭化 老朽化した木道の改修 ヤブの刈り払い
羽衣敷島の滝線 (北海道)	看板、丸太階段	△	△	<ul style="list-style-type: none"> 通行不可区間の復旧 敷島の滝の終点の明瞭化等
紅葉谷線道路(歩道) (上川町)	看板、ロープ	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 入り口付近の廃墟の撤去 駐車スペースの確保 等

(4) その他施設の状況

その他の施設状況を表 2-5-6 に示す。

銀河・流星の滝は、現状の双瀑台（滝を望む 2 つの展望台）の歩道は、手摺付き木製階段が中間展望台までしか整備されておらず、多くの利用者が中間展望台で引き返しているため、最終展望台が十分に活用されていない状況である。

天人峡園地は、敷島の滝へつながる散策路が土砂崩れのため通行不可となっている(2012 年 3 月時点)。土砂崩れ箇所は未だに不安定な状態である。滝は集客力のある自然環境資源であり、今後の利用に向けて早期のアクセス復旧が望まれる。

表 2-5-6 その他施設における各事業の概要

事業の種類等	事業名 (既事業執行者)	整備内容・施設概要	現況		必要性・機能性等の 観点から考えられる課題
			老朽化	管理状況	
単独施設 (園地)	銀河・流星の滝園地 (林野庁、北海道、 上川町)	トイレ、駐車場、標識、双瀑台、ロープ柵、手摺付き木製階段、園路等	△	×	<ul style="list-style-type: none"> ・ピーク時のトイレ不足対策 ・双瀑台の歩道の整備(ロープ柵、手摺つき木製階段等) ・滝周辺の枝葉の刈り払い
	天人峡園地 (北海道)	標識、標柱、トイレ、四阿、看板、野外卓、観瀑台、ベンチ等	△	△	<ul style="list-style-type: none"> ・園地入り口付近の看板の整理 ・敷島の滝へのアクセス復旧
	姿見の池園地 (北海道)	木道、展望台、標識・看板類	△	△	<ul style="list-style-type: none"> ・看板の更新 ・木道の補修 ・登山道補修 ・外来種の防除 等
その他 (事業施設の位置付けなし)	大雪山鳥獣保護区管理棟(ヒグマ情報センター) (環境省、北海道、 上川町)	ヒグマの目撃情報、生態情報、遭遇時の対処法等をレクチャーしている。	△	△	<ul style="list-style-type: none"> ・データ管理方法の再検討 ・柵の設置や施設の塗装 ・管理体制の充実 等



写真 2-5-3 旭岳石室外観



写真 2-5-4 姿見の池園地

(5) 施設に関するまとめ・考察

1) 集団施設地区

層雲峡、勇駒別どちらも利用拠点として必要な施設は整備されている。しかしながら、一部の施設については老朽化が進んでおり、各施設に関する情報も十分に提供ができていないことから、効果的に活用できていない状況にある。各施設について情報提供方法や利用者の動向、地元ニーズを把握した上で必要な対策を実施する必要がある。また、エコツーリズムの推進にあたっては、まずは多くの利用者に「エコツーリズム」について知ってもらうことが必要であることから、集団施設地区においてエコツーリズムに関する周知を重点的に図ることが必要となる。

勇駒別博物展示施設（旭岳ビジターセンター）は、展示内容の老朽化、立地条件等により十分に活用されておらず、施設の再整備や新設を視野に入れた新たな活用方法の検討が必要である。

2) 歩道の状況

歩道の状況については、紅葉谷線道路以外のすべての調査対象道路において老朽化または管理状況の問題がみられた。全体的な傾向としては、看板・標識の老朽化と登山道の荒廃問題が多く、特に中岳裾合平線道路、層雲峡勇駒別線道路の黒岳～北鎮岳間と黒岳～北海岳間における登山道の荒廃が顕著であった。

そのほか、沼ノ平姿見の池線では既存の石組の崩れがみられており、既存構造物の点検も含めた修復作業が望まれる。

3) その他施設の状況

集団施設地区と道路（歩道）以外の施設として、銀河・流星の滝、天人峡園地、姿見の池園地、姿見の池避難小屋、ヒグマ情報センターを調査した。姿見の池については、登山目的以外の利用者も多く訪れることから、外来種の侵入問題が発生している。ヒグマ情報センターでは、人員不足による運営上の問題が発生している。

2-6 アンケート及びヒアリング

エコツーリズムを効果的に推進していくため、利用者ニーズの把握を目的として、エコツアー参加者及びガイド事業者等を対象にアンケート及びヒアリング調査を実施した。

調査結果の概要を以下に示す。

(1) アンケート調査結果概要

エコツアー参加者を対象としたアンケートを、以下のエコツアーで実施した。アンケート調査の回答結果を次頁に示す。

調査を行ったエコツアーは、東川町観光地活性化・雇用創造協議会がモニターツアーとして実施した企画であり、歩道が整備されていない山中のミズナラの大木を目指し、やぶこぎを行いながら進むツアーであった。

参加者は8名、東川町民2名、近隣市町在住4名、札幌市在住2名であり、うち6人が一人での参加であった。参加者の年齢層は20～60代の全年代であり、男性5名、女性3名であった。本イベントについての情報収集手段は、インターネットが5名と最も多く、次いで道草館の広告が2名、地区内の商店が1名であった。

ほとんどの参加者がやぶこぎは初体験で、登山道以外の道なき道を歩いたことが非常に楽しいと感じており、普段できない体験が出来るエコツアーは、利用者にとって魅力的なプログラムであることがわかった。また、全員が有料でも参加したいと回答し、料金は7名が1000～5000円、1名が1000円であった。やぶこぎ等の環境保全に関わるエコツアープログラムは、商品となる可能性が高いと考えられる。

【ツアー名】 「ミズナラの長老に逢いに行こう！」

【開催日】 平成23年10月9日（日）

【ガイド】 塩谷秀和 氏

【参加者数】 8名

【主催】 東川町観光地活性化・雇用創造協議会

○モニターツアーについてのアンケート結果（ツアー企画者のアンケート）

1.性別	男：5名 女：3名
2.年齢層	<ul style="list-style-type: none"> ・20代：1名 ・30代：3名 ・50代：1名 ・60代：3名
3.在住地域	<ul style="list-style-type: none"> ・東川町内：2名 ・旭川市：3名 ・士別市：1名 ・札幌市：2名
4.今回ツアーの感想	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しかった：7名 ・無回答：1名
5.今回ツアーの情報の入手先	<ul style="list-style-type: none"> ・ブログ（森カフェ）：4名 ・道草館の広告：2名 ・インターネット：1名 ・当麻のパン屋：1名
6.どなたと参加されましたか	<ul style="list-style-type: none"> ・おひとり：6名 ・友人、知人：2名
7.今回のツアーの場合、料金（1人）はどのくらいであれば参加したいか	<ul style="list-style-type: none"> ・1,000円：1名 ・～5,000円：7名
8.楽しかった点は何ですか？ （回答は原文記載）	<ul style="list-style-type: none"> ・やぶこぎが始めてだったので楽しかったです。笹を刈りながら歩くというのも他のツアーでは体験できないことなのでおもしろいと思いました。 ・普段では見ることができないミズナラの長老と会えたのは感激でした。 ・やぶこぎ ・ミズナラの大木はステキでした。塩谷さんのガイドは大好きです。 ・植物（樹木）の名前・特徴を知ったこと。ミズナラの大木。 ・何年ぶりかの「やぶこぎ」と偉大なるミズナラの大木。 ・年配の人ばかりかと思いましたが、女性の方まで居て楽しく過ごせました。 ・何といっても笹こぎですね。塩谷さんのお話も楽しかったです。
9.ご意見、ご感想 （回答は原文記載）	<ul style="list-style-type: none"> ・同様のツアーがあったらまた参加させていただきたいです。 ・途中に頂いたケーキとミルクティーがありがたかったです。やはり、温かい飲み物が必要ですね。 ・植物、動物の知識を豊富に知りたい。 ・いつも整備された登山道しか歩いていなかったので、道なき道(?)を歩くという雰囲気よかった。 ・とても良い1日を贅沢に過ごさせて頂きました。ありがとうございました。

○大雪山国立公園エコツアーアンケート（本業務のアンケート）

1.登山ツアー、自然観察会、保全活動など、自然とふれあうツアーや活動に、これまで参加したことはありますか。（複数回答可）

選択肢	回答数	場所、内容、料金
a.各地で参加したことがある	3	<ul style="list-style-type: none"> 北海道医療大学「薬草園を見る会」、無料 旭川市内、嵐山の自然、無料 札幌、釧路の湿原の観察会、野幌の自然公園
b.大雪山国立公園で参加したことがある	3	<ul style="list-style-type: none"> 旭岳など登山ツアー、東川の自然観察会 無料～5,000円 東川町内の自然観察会（天女が原、天人峡滝見台）300円 大雪山自然観察会など
c.個人またはグループでガイドを雇ったことがある	0	
d.参加したことはない	3	

2.自然とふれあうツアーや活動、イベント等の情報をどのように収集していますか。（複数回答可）

選択肢	回答数
a.インターネット	6
b.情報誌	1
c.チラシ	2
d.道の駅などの案内所	3
e.知人から	4
f.その他	0

3.大雪山国立公園への来訪数を教えてください

選択肢	回答数
a.毎年数回	4
b.年1回程度	0
c.2～3年に1回程度	3
d.昔訪れたことがある	1
e.はじめて	0

4.大雪山国立公園へ訪れるときの宿泊について教えてください。（複数回答可）

選択肢	回答数	宿泊施設の種類の
a.東川町（旭岳温泉、天人峡温泉、町内）	2	・ユースホステル：1
b.上川町（層雲峡温泉、高原温泉、町内）	1	
c.旭川市内	1	
d.宿泊しない	5	・町内在住：1、車中泊：1
e.その他	0	

5.大雪山国立公園へ訪れるとき交通手段について教えてください。(複数回答可)

選択肢	回答数
a.マイカー	8
b.レンタカー	0
c.JR	0
d.バス	0
e.航空機	0
f.その他	0

6.大雪山国立公園でどのような自然とふれあうツアーや活動等に参加したいですか。有料でも参加したいものには◎、無料なら参加したいものには○をおつけ下さい。

(複数回答可)

選択肢	回答数
有料でも参加したい	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察会：5 ・登山：4 ・国立公園の保全活動：1 ・山麓エリアのツアー：3 ・冬季のツアー：2 (スノーシュー)
無料なら参加したい	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察会：2 ・国立公園の保全活動：2 ・山麓エリアのツアー：2 ・冬季のツアー：2

7.大雪山国立公園の感想、体験してみたいこと、困っていること、ご自由にご記入下さい。

<ul style="list-style-type: none"> ・今日みたいな他のツアーとは少し違うツアーがたくさんあればいいなと思います。 ・スノーボードで毎年訪れています。いつもロープウェイで登り滑るだけです。ツアーがあれば参加してみたいです。 ・設備の良い山小屋があれば良い。

(2) ヒアリング結果概要

1) ヒアリング対象者

エコツーリズムを効果的に推進していくために、関係者へのヒアリングを実施した。今回ヒアリングを行った対象者及びヒアリング概要を以下に示す。ヒアリングメモは、資料編に示す。

ヒアリング対象者

	所属	氏名
①	(社) ひがしかわ観光協会	春菜 秀則 氏
②	層雲峡温泉旅館組合	西野目 智弘 氏
③	(株) りんゆう観光	高橋 智樹 氏
④	ヒグマ情報センター	佐藤 文彦 氏
⑤		山岳ガイド講習会講師等

2) ヒアリング結果概要

①春菜 秀則 氏

(社) ひがしかわ観光協会

ヒアリング日時：平成 23 年 12 月 19 日 (月)

○旭岳温泉の現状・行われている取り組み等について

- ・ エコツーリズム推進の活動は、観光協会では行っていない。カムイミンタラクラブの活動が近い。NPO 法人ねおすとの共同企画で、山開きの前夜祭としてヌプリコロ・カムイノミ（アイヌの夏の儀式）を予定している。
- ・ アイヌ文化と接する機会は大切。アイヌ文化を含むイベントを行いたい。
- ・ 旭岳山麓エリアの生き物の声が、日本の音風景 100 選に登録。
- ・ 宿泊施設の従業員が、旭岳の自然環境についてよく知らない。
- ・ 旭岳温泉～天人峡ハイキングコースは外国人観光客がよく利用している。
- ・ バードウォッチャーが多い。ギンザンマシコが目当て。

○エコツーリズムセンター整備案・施設内容について

- ・ 憩いの場となるのが理想。レクチャールーム、テラス、足湯等、自然と調和したつくりで、野鳥や花が観察できれば良い。
- ・ 人の動線上に施設がほしい。
- ・ 登山証明書の発行。
- ・ 宿泊施設の従業員が勉強でき、山のことを何でも教えてくれる施設。

○エコツーリズム推進のための対策について

- ・ 山麓エリアの資源を活かしたい。自然散策路等を整備し、ガイドが案内する。
- ・ 発掘されていない資源にスポットを当て、展示物に反映させる。
- ・ エコツーリズムで保全活動を行うには、わかりやすいレクチャーが重要。
- ・ 情報発信者はエコツーリズムの核、雇用の安定が持続につながる。
- ・ エコツーリズム推進協議会主体のイベントを開催。最低限のルールを決め、自由に企画出来る。

②西野目 智弘 氏

層雲峡温泉旅館組合

ヒアリング日時：平成 23 年 10 月 9 日（日）

○地域活性化等の取り組み

- ・ 自然観光素材を探す委員会を立ち上げている。今年は若年層がターゲット、来年はシニア層も含めたい。

〈近年の主な取り組み〉

●山さんぽ事業（モニターツアー：昨年）

山ガールと山ボーイを募集し、層雲峡自然体験ツアーに招待。参加者に感想を twitter やブログで発信してもらおう。来年、ガイド付ツアーとして商品化予定。

●大雪星めぐり事業（モニターツアー：おとし）

今年からガイド付きの星観察ツアーとして商品化。新月の頃に黒岳 5 合目、旭ヶ丘、大雪湖で 4 回開催。広報は各宿泊施設。当日参加可能。料金は¥2000。

●銀泉台雲海ツアー（モニターツアー：今年）

早朝出発し、銀泉台からの雲海を眺めながら朝食を食べるツアー。
銀泉台までの交通の便について調整中。

〈その他の取り組み〉

●氷瀑まつり

●スノーシュートレッキング

●柱状節理を楽しむためのツアーを構想中。

○ハード整備に関する現状・要望

- ・ 小函が、崩落事故のため通行不可。早期復旧を望む。
- ・ 環境整備（廃墟の撤去など）。
- ・ 層雲峡園地に子供向けのフィールドアスレチックがあれば良い。
- ・ 黒岳の石室は建替えが望ましい。
- ・ 紅葉谷の歩道整備を進める予定。

○今後の課題等

- ・ ジオパークの認定を受けたい。
- ・ 大雪山国立公園を前面に出した集客を図りたい。PRやイメージアップを近隣地域と連携して行いたい。エコツーリズムにも力を入れたい。
- ・ ツアーガイドを宿泊施設スタッフが行うため、イベントの質にバラつきがある。
- ・ 上川町から人材育成の資金補助が出る。それを活用して企画を立案したい。
- ・ 道内客には上川町、道外客には北海道として売り出すことが難しい。
- ・ 地産地消は、コストが問題。

○その他

- ・ 外国人はツアーに関心があり、特に夜間の参加者が多い。

③高橋 智樹 氏

(株)りんゆう観光

ヒアリング日時：平成23年10月8日(土)

○りんゆう観光の事業

- ・ ロープウェイ・リフトの運営、スキー場の運営、黒岳石室の運営、旅行業(宿泊施設、チケット等の手配)、ツアーガイドの斡旋等。
- ・ 定期的に星の観察会、スノーシュートレッキングなどを開催。参加者は満足している。参加してもらうまでが問題。

○利用状況

- ・ 登山客は、ツアーが3~4割、個人が6~7割。今は個人客が多い。
- ・ おととし頃から若年層が増加、小グループが多い。ツアーは中高年が多い。
- ・ 最近のツアーは、20人前後が多い。
- ・ コースは黒岳のみの登山が一番多い。縦走は、黒岳~旭岳コースが一番多い。トムラウシ方面は多少。交通の便が悪いため、愛山溪へ向かう登山客は少ない。
- ・ 登山者数のピークは7月の海の日頃。
- ・ 縦走者の交通手段はバスがメイン。マイカーの運転代行も利用されている。
- ・ 外国人はほとんどが個人客。アジア、ヨーロッパ、アメリカが多い。リピーターは多い。
- ・ 上川小学校の4年生や上川高校の3年生は、授業や遠足等で黒岳を登山する。
- ・ ガイドが案内するのは、黒岳と赤岳が多い。
- ・ ロープウェイは、夏期はほぼ毎日運行。運行できない日は月に1、2度。
- ・ 道内からは一般の観光客が多く、近隣の旭川等からは登山者が多い。
- ・ 石室の宿泊者は、山に慣れている人が多い。黒岳の利用者数は減少しているが、石室の利用者数は安定している。

○エコツーリズムの現状について

- ・ 層雲峡は一般の観光客が多く、登山客は少ない。
- ・ 東川町とは、距離があり連携は難しい。山岳がメインの東川町に対し、上川町は一般的な観光がメイン。

○登山についての問題等について

- ・ 軽装での登山者が見られる。今後は登山初心者向けの案内を進めたい。
- ・ 外国人向けの案内看板等の整備が進んでいない。
- ・ 石室に隣接するバイオトイレがうまく稼働できていない。トイレは上川町が管理。りんゆう観光は石室のみ管理・運営。
- ・ 黒岳石室~北鎮岳間の登山道荒廃箇所は、徐々に進行しているように見える。

④佐藤 文彦 氏

ヒグマ情報センター

ヒアリング日時：平成 23 年 9 月 26 日（月）

○ヒグマセンターの課題について

- ・ 設立当初のコンセプトと合わなくなっている。
- ・ 予算が少なく、運営が厳しい（スタッフ 4 人（4 ヶ月）+1 名）。
- ・ 研究室という側面がなくなった。現在、クマの目撃データを整理。
- ・ 冬期間スタッフは地元に戻るが、不安定な雇用形態が続いている。

○利用形態について

- ・ 利用者へのレクチャーを義務付けているが、聞いていない人もいる。
- ・ 監視員が足りないため、シャトルバス運行期間以外は高原沼までの半周コース。シャトルバス運行期間はボランティアの応援で 1 周コースが可能。
- ・ 食事は大学沼・緑沼のみ可能。
- ・ 利用者は山岳ツアーのお客がメイン。ツアー自体は減少傾向にある。
- ・ ガイドの仕事は 1/2~1/3 に減少。
- ・ 個人客も減ってきている。
- ・ 最近は香港、台湾の外国人が多い。

○登山道の問題について

- ・ 登山道の補修はセンタースタッフがボランティアで実施しているが、今後は何とかしてもらわないと続かない。
- ・ 補修必要な箇所として、登山道、山小屋（白雲：床、忠別：屋根）、トイレ、ごみ処理問題 ⇒これらは人を呼ぶ前に整備を実施する必要がある。
- ・ 予算がなく、人手と資材がない。
- ・ ボランティアでの補修に限度があり、荒廃に補修が追いつかない箇所がある。
- ・ 湿地なので泥濘化する。泥濘化の対策を行いたい石がない。
- ・ 泥濘化した箇所は石での補修がよい。ここでは、橋に使用していたグレーチングを利用している。グレーチングは丸太を敷いて少し浮かせた状態で置いている。

○ボランティアによる、維持管理への一般の人の参加について

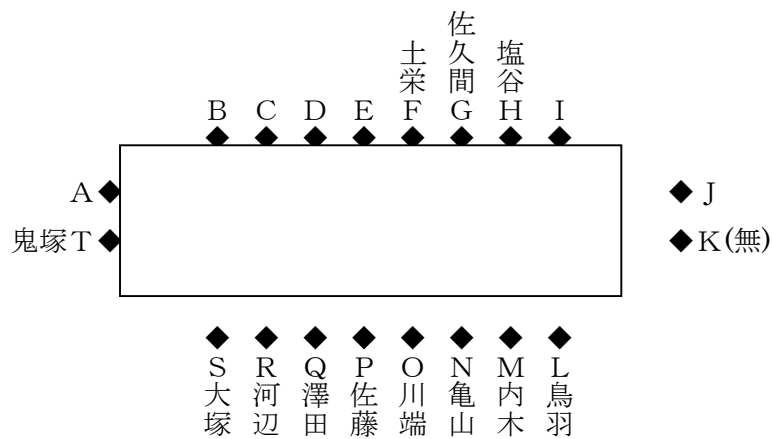
- ・ 現場としてはありがたい。自分で補修した箇所が気になり、リピーターとなる動きが広がれば、大きな力になる。
- ・ ボランティアで関わる人たちへの技術指導・レクチャーが重要。
- ・ エコツーリズムは参加者本人が楽しく、地元にもメリットがないと続かない。

⑤東川町山岳ガイドほか合同ヒアリング

ヒアリング日時：平成23年10月4日（火）

出席者は以下のとおりである。

合同ヒアリング 出席者一覧



A～E：一般（山岳ガイド講習会参加者）

F～L：山岳ガイドほか（山岳ガイド講習会講師等）

Q～T：東川町観光地活性化・雇用創造協議会 関係者（山岳ガイド講習会主催者）

M～P：環境省、(株)ニュージェック

○登山道の荒廃と登山者の意識

- ・初めて来た人は、「荒廃している」ことがわからない。
- ・大雪では6月頃まで残雪・融雪があり植生に踏み込んでしまう。
- ・知らない人は、植生保護のロープを「手すり」だと思ったり、土留を「歩行のため」と思ったりする。
- ・説明すると分かってもらえる。説明が大事。

○エコツーリズムによる保全・整備の意識、法的・技術的問題

- ・荒廃状況を見せるプログラムをやった。今後もやる気はあるが、法的な許可などはどうなるのか？
- ・管理者側で手続きなどを全てやれば良いが、マンパワー不足。法的手続き～作業指導といった全体を監督出来る人がいれば良い。
- ・そういう「監督者」が、お金を取れるようにする必要がある。
- ・誰にでも整備をまかせることはできない。保全・整備についての資格があれば良いのだが。
- ・「事前研修＋ツアー」といったセットにすべき。理解して作業出来るので、リピーターも増える。
- ・作業にはいろんなレベルがある。山上の現場まで資材や食糧を運ぶスタッフも必要。それなら特別な研修を受けなくても出来る。
- ・体験出来ること、体験することが大事。
- ・エコツアーは「知る＝教育」であって、関心のある人はいるが、実際に整備を行うにはプロが必要。
- ・石一つ動かすにしても、普通の人では1日だけの講習では無理。技術を持った人は量産出来ない。ので、保全・整備の主体、実際に山行している人になる。普通の人・ツアー参加者は資材運びなどの手伝い。

○保全・整備＋エコツーリズムという考え方

- ・ツアーの参加者からお金をとって公共事業をするというのは日本では難しい。
- ・ツアーにプラスして軽作業するぐらいが妥当。
- ・エコツアーでは、客に保全・整備に関わったという満足感を与えることは出来ても、技術的に十分な保全・整備をしていくことは出来ない。
- ・ボランティア作業に対する地元企業・行政側からの支援に関する問題点もある。
- ・海外のお客さんの中には、「登山道を直したい」という人がいた。
- ・保全・整備プログラムには、「保全活動の経過を観察」や「ゴミ拾い」も考えられる。目的を持って山行したいという人も多い。
- ・一つのプログラムとしての保全・整備は「有り」。一方、保全・整備の実働は無理。
- ・エコツアーでは参加者に興味を持ってもらうところまで。寄付を集めたり、関心を持った仲間を増やしていくことは出来るかもしれない。

○エコツーリズムへの認識

- ・「エコツー」とは、観光資源としての自然資源はあるが金のない第三世界に対し、ヨーロッパ人が自然資源への観光で外貨を落とし、地元の人々はその維持管理という仕事で所得を得る、という経済システムの一つ。登山道整備ボランティアとは関係がない。
- ・自分で金を払ったツアー参加者が、税金による仕事を請け負った土木業者の作業を手伝うという構図はおかしい。本来、登山道管理、保全・整備は行政の仕事。

○基盤整備の問題

- ・「本来的な基盤整備」の問題として、普通の登山もままならない現状がある。登山口に行きつけない所がある。ガイドの仕事の幅も狭まっている。
- ・エスケープルートの確保ができないのは問題。

○組織づくりの面・エコツーリズムの捉え方・据え方

- ・食から入る手法がある。全ホテルで統一したブランド名の米にするといったこと。
- ・ガイドの質の一定化も課題。

○交通の支援必要性・問題点

- ・ガイド側からすれば、一人で送迎車を回す・手配するのは大変。現状ではホテルの送迎バス利用は無理。
- ・運転代行の人の仕事・生活を圧迫する。
- ・路線バスは、旭岳温泉からロープウェイまでの運行時刻だけでも何とかできないか。朝がああ運行時刻（旭岳ロープウェイ山麓駅前着 10:51）では、登山者は利用できない。
- ・天人峡発着線も無くなった。
- ・ミニバスとか、乗合タクシーという方法もある。
- ・いろんな所に行きたい人がいる。あらかじめ行先をきいてピックアップする方法もある。

○交通以外での支援必要性・問題点

【トイレ】

- ・トイレが必要。理想は、工事現場に置くようなトイレ。携帯トイレブースでもいい。
- ・使用済み携帯トイレを山小屋に置いていく人がいる。
- ・携帯トイレの回収ボックスも登山口にほしい。
- ・積雪があるので、恒久的なトイレブースは無理。とはいえ仮設もどうか。
- ・忠別だけは直してほしい。

【歩道付帯施設】

- ・腐った木道の再整備。
- ・余計な看板・標識の撤去。
- ・看板・標識は、英語・ローマ字表記が必要。
- ・地図がない。

○冬季の状況（⇒バックカントリースキー、安全監視体制）

- ・海外のお客さんは冬が多い。アジア系のお客さんも結構来る。
- ・冬のツアーもやっている。
- ・冬はバックカントリースキー。
- ・ロープウェイ会社は「コース外を滑らないように」という方針。
- ・地元活性化という点では、ガイドを付ける、雪崩の監視員を設けるなどバックカントリースキーが出来る体制が望ましい。
- ・莫大な金をかけてニセコみたいにパトロール・監視するというのはどうか。

○悪天候等でツアー中止の場合の代替プログラム

- ・ツアーを悪天候で中止する場合、旅行会社からの請負だと何かしなければいけない。自社ツアーなら、帰って温泉、ということもある。
- ・いずれにせよ、とりあえずは行く。現場で「これは無理だ」と納得してもらって帰る。
- ・中止のタイミング、理由づけは難しい。
- ・ピークを目指さないならやることはある。
- ・チャーターバスは登山口で返してしまうので、何時間も待機ということもある。時間つぶしの何かがあれば、良いのだが。

○安全の次にツアーで大事なこと

- ・パーティとしての雰囲気づくり。
- ・お客さんの満足感・達成感。
- ・季節感。
- ・お客さんの想像以上のものを与えたい。

○拠点施設のあり方

- ・展示主体のビジターセンターはいらない。
- ・設備ではなく「人」。自分たちで情報をとってきて生の情報を発信出来る体制。
- ・「サービス業」としての観点が必要。客が求めているものを提供する。例えば、情報発信。公共事業的予算がなければ、自分たちで物品販売をしてその費用を賄う収益を確保していく、といったやり方。
- ・「生の情報」、「新しい情報」が求められている。
- ・ロープウェイの運行時刻に合わせて開館するべき。
- ・物販してほしい。例えば、その地域の研究資料をコピー出来るような。
- ・物販には、絵葉書、切手といったものもあるが、少なくとも地形図はほしい。

○「食」（⇒地域活性化の手段・テーマとしての「食」と、山行時の食糧確保）

- ・地元でとれる米から。少なくとも道内産の食材で。
- ・弁当屋がほしい。ホテルでは昼食の弁当を作ってくれない。

○ツアー参加者の情報源の現状、情報発信の体制・方向性

- ・ツアー参加者の情報源は人による。旅行代理店のパンフレットも多い。
- ・ホームページは顧客が見てくれる程度と考えている。新規顧客開拓の手段としてはどうか。
- ・お客さんが自分のホームページで紹介してくれたり、口コミもある。
- ・観光協会へ問い合わせる人もいる。
- ・来てからガイドを探す人はあまりいない。登山でなく散策ならある。
- ・現地でツアーの申込みが出来る統一窓口があればいい。
- ・そういう役割・仕事の人が食っていける体制を考える必要がある。
- ・ツアー代金の10%では食ってはいけない。ビジターセンターのサービスか。
- ・個人ではなく、元締めがあるような体制が良い。

○ツアー利用者の特性・人数制限など

- ・リピーターは多い。旅行会社経由は初めての人が多い。
- ・標準的な人数は20人以内で、添乗員も山行出来る人。
- ・1人で12人を受け持つぐらい。
- ・山岳協会の規定で概ねの指針がある。

○公園・登山利用に関する料金・寄付金について

- ・アジア系の人には「入域料は取らないのか」と言われる。
- ・海外のお客さんは、寄付箱が設置してあると寄付金を入れてくれる。
- ・日本人でも年輩の方は、ものを運ぶのは無理なので寄付させてもらう、とかある。
- ・寄付は、その寄付金はどう使われているのか説明しないと集まらない。
- ・旭岳にある寄付箱の寄付金の使途は、自然保護監視員の手当にしている。
- ・エコツアー参加者に説明して寄付を求めればよい。